

# 資料 NORC年表



年号	主要事項	関連/社会事項
	<b>〔世界ヨット史〕</b>	
1660年	オランダから英国王に Jaght タイプ小型帆船（全長52 ft, 幅19 ft, 100トンカッター・リグ）寄贈。	徳川家康、江戸幕府を開く（1603年）。
1720年	アイルランドで Cork Water Club 創立。世界初のヨットクラブとされているが、ヨット・レースは開催しなかったとも言われている。	
1775年	ロンドンのテムズ河で全長20 ft 前後の艇によるヨット・レースが行なわれる。このヨット・レースを主催するクラブとして Cumberland Fleet 創立（英国初のヨットクラブ。カンバーランド侯がスポンサーで、今日の Royal Thames Yacht Club の前身）。	アメリカ独立戦争（1775～1783年）。イギリスでは産業革命起る（1775年～）。フランス革命起る（1789年）。
1815年	英国で The Yacht Club 創立（英国王室ならびに貴族で構成。後の Royal Yacht Squadron の前身）。	
1826年	Cowes Week（カウズ・ウィーク）始まる。The Yacht Club 主催、40トン未満のヨットを対象とした。このとき初めてスターボード艇の航路権を認めたルールが採用されたと言われている。	
1833年	The Yacht Club が Royal Yacht Squadron となる。	
1834年	Boston Boat Club 創立。アメリカ初のヨットクラブ。	
1844年	New York Yacht Club 創立。会員8名、16～45トンの艇9隻。	アヘン戦争起る（1840年～42年）。
1851年	New York Yacht Club の〈America〉号が、大西洋横断航海。ワイト島一周レースで14隻の英国勢相手に優勝。アメリカズ・カップが始まる。	
1854年	テムズ計測ルールが制定された。	アメリカ使節ペリー浦賀に来航（1853年）。
1866年	3隻の大型スクナー（Henrietta, Vesta, Fleetwing）によるニューヨーク～カウズの大西洋横断レースが行われる。	アメリカ南北戦争勃発（1861年）。明治維新（1868年）。
1880年	Royal Cruising Club が英国で創立される。10トン以下のヨット対象。	
1891年	アメリカの〈Gloriana〉（Herreshoff 設計）、外洋艇として初めてディープキールの外部バラスト採用、現代外洋ヨットの基本概念が確立したとされている。	日清戦争起る（1894年～95年）。
1895～98年	ボストンの Captain Joshua Slocum が〈Spray〉号（全長41ft, 幅14ft 2 in）で単独世界一周航海に成功。	
1904年	ニューヨーク～マープルヘッド間の沿岸ヨット・レース開催。“Rudder” 誌主催、6隻参加。	ライト兄弟、飛行機発明（1903年）。日露戦争起る（1904年～5年）。
1905年	大西洋横断ヨット・レース開かれる。ニューヨークから英国リザード間3014マイルの世界初の本格的な外洋ヨット・レース。英、米、独3ヶ国から11隻が参加。〈Atlantic〉（3本マスト、全長187 ft, スクナー）が優勝。	

年号	主要事項	関連/社会事項
1906年	Bermuda Race 開催される。LWL 19~30 ft の外洋ヨット 6 隻参加。Alden 設計のスクナー 〈Malabar〉 優勝。 ロスアンゼルス (サンペドロ港) よりホノルルまでのレース開催される。初の Transpac Race。	
1907年	International Yacht Racing Union (IYRU) 創立。J-クラス, 12 m, 8 m, 6 m の 4 クラスによるレースが中心。	
1911年	Thomas Fleming Day が 〈Sea Bird〉 (全長 26 ft 3 in) にて大西洋を横断。小型外洋ヨットによる初の大西洋横断となった。(なお、〈Sea Bird〉と同型艇の 〈Sea Queen〉 は Captain Voss による太平洋航海中、日本近海で台風に遭い、横転後無事横浜に帰港している)。	第一次世界大戦起る (1914年~18年)
1922年	Cruising Club of America (CCA) 創立。	大正デモクラシー。
1922 ~25年	Harry Pidgeon 〈Islander〉 (全長 34 ft ヨール) にて世界一周成功。	関東大震災 (1923年)。
1923 ~29年	Alain Gerbault 〈Firecrest〉 にて世界一周成功。	
1925年	初の Fastnet Race 開催される。参加資格 LWL 30 ~ 50 ft のヨット。参加艇 7 艇。全長 52 ft のカッター 〈Jolie Brise〉 が優勝。 Fastnet Race 終了後、Ocean Racing Club 創立 (会員 34 名。今日の RORC の前身)。	リンダーバーク大西洋横断飛行に成功 (1927年)。
1928年	アメリカの 〈Nina〉 (全長 59 ft, Starling Burgess 設計, アメリカンスクナー・タイプ) が大西洋横断レースとファストネット・レースをそれぞれ優勝。オフショアヨット・レース専用の外洋ヨット設計が本格化した。〈Nina〉は全員アマチュアのクルー。これ以降プロのスキッパーとクルーは登場しなくなる。	ウォール街の株価大暴落, 世界的な不況始まる (1929年)。
1930年	アメリカズ・カップ, J-クラスを採用。アメリカの 〈Enterprise〉, 初めてアルミマスト採用。	
1931年	アメリカの 〈Dorade〉 (LWL 37 ft 3 in のヨール, Olin Stephens 設計, 当時 23 歳) が大西洋横断レースとファストネット・レースにそれぞれ優勝。 英国の Ocean Racing Club に Royal の資格が付与され RORC となる。 RORC レーティング規則確立。 英国からアメリカへのトランスアトランティック・レース開催される。	満州事変起る (1931年)。 満州国建国宣言が発表され (1932年), ヨーロッパではヒトラーがドイツ首相に就任 (1933年)。
1932年	アメリカ CCA 独自のレーティング・ルール制定。これ以降 1970 年に IOR が世界の外洋ヨットの共通ルールとして採用されるまで, RORC と CCA との両ルール併立時代が続く。	
1934年	アメリカズ・カップのアメリカ艇 〈Rainbow〉 初めてロッ	



年号	主要事項	関連/社会事項
1936年	ド・ステイ採用。 RORC が Time Correction Factor (T. C. F.) によるハンディ キャップ・システムを採用。	第二次世界大戦起る(1939年～45 年)。
1944年	Cruising Club of Australia 創立。	太平洋戦争始まる(1941年)。
1945年	初のシドニー～ボパート・レース開催される。参加艇 9 隻。	日本、ポツダム宣言を受け終戦 (1945年 8 月)。
1947年	英国の〈Myth of Malham〉がファストネット・レースに 優勝。新しい軽排水量タイプの外洋レーサーの登場。 Buenos Aires～Rio de Janeiro Race (1200マイル) 開催。	
1950年	アメリカズ・カップに12 m を採用。 Patrick Ellam の〈Sopranino〉(全長19 ft 8 in, Laurent Giles 設計カッター) 英国～スペイン航海に成功。 Junior Offshore Group (JOG) 創立。〈Sopranino〉の成功 がキッカケとなる。LWL 16～20 ft が対象(後に24 ft まで 拡張される)。	朝鮮戦争起る(1950年)。
1951年	〈Sopranino〉大西洋横断に成功。	サンフランシスコ講和条約調印 (1951年)。日米安保条約調印。
1952 ～53年	Ann Davidson が〈Felicity Ann〉(全長23 ft) で女性によ る初の大西洋単独横断に成功。	エベレスト初登頂成功(1953年)。
1954年	アメリカの Midget Ocean Racing Club (MORC) 創立。	
1955 ～59年	John Guzwell 〈Trekka〉(全長20 ft 6 in, Laurent Giles 設 計ヨール) で世界一周に成功。	スエズ動乱起る(1956年)。
1956年	Sail Training Association (STA) 英国で創立。初の Tall Ship Race を開催。12隻参加。	
1957年	Admiral's Cup 始まる。	ソビエト人工衛星スプートニク 1 号打ち上げ成功(1957年)。
1965年	One Ton Cup 始まる。レーティング27.5 ft。	ケネディ大統領暗殺される(1963 年)。
1966年	1/2 Ton Cup 始まる。	東京オリンピック開催(1964年)。
1967年	1/4 Ton Cup 始まる。	
1969年	IOR (International Offshore Rule) 制定。1970年より発効。	
1984年	One Ton Cup のレーティングが30.5 ft となる。	
	[CCJ 前史]	
1922年 (大11)	8 月 琵琶湖に「日本ヨット倶楽部」発足。	
1931年 (昭 6)	6 月 「日本モーターボート協会」発足。	9・18 満州事変起る。
1932年 (昭 7)	2・17 慶應義塾体育会水泳部内に「慶應ヨット倶楽部」発足。 5・27 日本モーターボート協会機関誌として〈舵〉創刊。 6・14 慶應義塾水泳部 OB を中心に「三田ヨット倶楽部」発足。 この年、「東京湾ヨット倶楽部」、「東京ヨット倶楽部」、「日	

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>本ヨッチング協会」,「ヘルメス倶楽部」発足。</p> <p>8・21 慶應義塾水泳部の主催で第1回湘南ヨットレース開催。湘南地方で初のヨットレースとなる。</p> <p>9・4 琵琶湖にて第1回大毎杯争奪ヨットレース開催。</p> <p>10・22 日本ヨッチング協会の第1回ヨットレース開催。</p> <p>11・23 「東部日本ヨット協会」(慶應義塾水泳部,三田ヨット倶楽部,日本ヨッチング協会,ヘルメス倶楽部他)および「西部日本ヨット協会」(日本ヨット倶楽部,九大玄海ヨット倶楽部,名古屋東海ローキング倶楽部,プレゼント・ヨット倶楽部,大阪帝大ヨット倶楽部,大毎ヨット倶楽部,クレセント・ヨット倶楽部)が発足。</p> <p>11・27 東西両ヨット協会の合意により,「日本ヨット協会」発足。会長/平沼亮三氏。国際12呎,国内5米を制式艇に採用。</p>	<p>7・30 第10回オリンピック・ロサンゼルス大会。</p> <p>9・15 満州国建国。</p>
1933年 (昭8)	<p>4月 27呎クルーザー〈若草〉(西園寺氏所有)進水。</p> <p>4・29 日本ヨット倶楽部が「琵琶湖ヨット倶楽部」と改称。</p> <p>6・18 西部日本ヨット協会主催,琵琶湖ヨット倶楽部後援第1回名古屋医科大学,同志社大学対抗ヨットレース開催。「早稲田大学ヨット部」発足。</p> <p>7・30 時事新報社主催,東京日本ヨット協会後援東京湾縦走ヨットレース開催。</p> <p>8・18~20 第1回西部日本ヨット選手権競争,琵琶湖にて開催。</p> <p>8・19~20 第1回東部日本ヨット選手権競争,品川にて開催。</p> <p>9・23~24 第1回日本ヨット選手権レース品川にて開催。12呎優勝/吉本善多(同志社大),5米優勝/〈初風〉(白石・坂倉・阿藤/三田YC)。</p> <p>9・24 日本ヨット選手権と併せて,第1回インターカレッジ・ヨットレース開催。優勝/吉本・鈴木(同志社大)。</p> <p>11・3 第7回明治神宮体育大会ヨット競技大会,品川にて開催。「全国学生対抗競技」では平松・伊藤(慶應)が優勝。「東西対抗競技」は同点引分け。</p>	<p>1・30 ヒトラー政権誕生。同志社大ヨット部誕生。東海ローイング(俱)HOY1号,2号(18フィート)建造。</p> <p>6・2 九大ヨット部員遭難。阪大ヨット部誕生。</p> <p>6・17 第1回関東インカレ。東大ヨット部誕生。京大ヨット部誕生。</p> <p>スター級 Bally-Hoo (財部),スター級玄海1世(九大),スター級紺碧(早大),の3艇進水。</p>
1934年 (昭9)	<p>6・24 「神奈川ヨット倶楽部」発足。</p> <p>6月 北辰YC,三田YC,ヘルメスYC,トリトンYCが合同し,「横浜セーリング倶楽部」発足。</p> <p>7月 24呎補機付セーリング・クルーザー〈あけぼの〉進水。同艇は初めて〈舵〉(8月号)誌上に紹介されたクルーザー。</p>	<p>1935年3月 日本ヨット協会国際ヨット競技連盟(IYRU)に加盟。</p>
1936年 (昭11)	<p>9・4~10 ベルリン五輪ヨット競技。日本は五輪に初参加。吉本祐一監督,小澤吉太郎コーチ以下,スター級〈明星〉(財部實・三井卓雄,補欠龍野一彦)は11位,オリンピック・ヨレ級〈燕〉(藤村紀夫,補欠吉本善多)は22位。</p>	<p>2・26 二・二六事件起る。</p> <p>11・25 日独防共協定調印。</p>
1937年 (昭12)	<p>7・24, 25 横浜セーリング倶楽部主催の下,日本で初めての外洋レース,大島周航外洋ヨットレース開催。コースは逗子~</p>	<p>6・4 第一次近衛内閣成立。</p> <p>7・7 支那事変起る。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>大島（反時計）～逗子。参加4艇で、1位〈アオイ〉（27呎、進藤光之助、所要時間26時間01分）、2位〈モカディック〉（28呎、財部四郎、27時間10分）、3位〈わかくさ〉（27呎、大村泰敏、27時間40分）。〈朝風〉（36呎、西園寺八郎）はリタイア。タイム・アローワンスは、〈朝風〉以外の3隻はその所要時間より〈朝風〉の所要時間の1/6を引くという簡単な方法。</p> <p>11・5 日本モーターボート協会の下に「国防自動艇隊」発足。</p>	
1938年 (昭13)	<p>2月 「ヨット・ペンクラブ」発足。初期メンバーは、関谷健哉、小田千馬木、安田貞治、小澤吉太郎、大川緩、寺山喜樹、小野暢三（顧問）、土肥勝由。</p> <p>6月 造艇銅材の統制始まり、東京オリンピック用練習艇以外の娯楽船の銅材は配給されないこととなる。</p> <p>7・15 東京オリンピック中止。</p> <p>7・24 横浜セーリング倶楽部主催、第2回初島レース開催。1位〈花藤〉（進藤光之助／所要時間23h59m）、2位〈若草〉（西園寺愛子）、3位〈葵〉（大村泰敏）、4位〈朝風〉（西園寺八郎）、〈神風〉（山口良一）＝失格。</p> <p>10・3 米人医師 E. A. ピーターセン氏とその夫人（吉原）たねさんの乗る〈ハンメル・ハンメル〉（8t）が無事太平洋を横断、7月12日に横浜を出発して85日間を要した。</p>	<p>4・10 三田ヨット倶楽部L級（18フィート）〈SION〉進水</p> <p>東北帝大ヨット部誕生</p> <p>4月 国家総動員法発令。</p>
1939年 (昭14)	<p>9・24 「日本学生ヨット連盟」発足。</p>	<p>9月 第二次世界大戦勃発。</p>
1940年 (昭15)	<p>10月 横浜港で軍機等の理由で、一部航行禁止区域が設けられる。</p>	
1941年 (昭16)	<p>8月 ヨットは公式には「帆艇」と称するようになる。</p>	<p>12月8日 太平洋戦争起る。</p>
1943年 (昭18)	<p>「日本学生ヨット連盟」は解消し、「大日本学徒体育振興会」に吸収される。</p>	
1944年 (昭19)	<p>ほぼすべてのレースは中止され、セーリング自体もできなくなる。〈舵〉休刊。</p>	<p>1944年 Cruising Club of Australia 創立。</p>
1946年 (昭21)	<p>11・1 「第1回国民体育大会」琵琶湖にて開催。併せて「全日本インカレ」復活。</p>	<p>1945年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し終戦、平和が訪れる。同年12月、オーストラリアでは初のシドニー～ホバート・レースが行なわれている。</p>
1947年 (昭22)	<p>日本ヨット協会および学連で「スナイプ」の採用が決まり、次第にレース熱も再興する。</p>	



年号	主要事項	関連/社会事項
	[CCJ から NORC へ]	
1948年 (昭23)	在日アメリカ人を中心に CCJ (クルージング・クラブ・オブ・ジャパン) が結成される。当時の主な会員は、グリーン、アイスター、ロビンソン、サンプソン、山口四郎、横山晃らの諸氏。	1・26 帝銀事件 5月 〈舵〉復刊。
1950年 (昭25)	7・21 戦後初の外洋レースである大島レース (横浜→大島岡田港片道) 開催。〈アーゴノート〉(慶應大ヨット部/増田一義) が単独完走優勝。朝鮮戦争のためアメリカ艇の参加は〈ブルーワンダー〉(28 ft ケッチ), 〈はごろも〉(25 ft ヨール) の2艇のみであったが荒天のためリタイア。 8・26~29 CCJ. メンバー 藤井敏男氏, 12 ft ラグ・キャット艇にて瀬戸内海をクルージング。 11・17~24 横山晃氏(ミス・シオガマ) (28 ft ガフ・ヨール) で宮城県塩釜から横浜まで回航クルージング。	6月 朝鮮動乱始まる。 7月 金閣寺消失。 アメリカズ・カップに12 m クラスを採用。
1951年 (昭26)	2・24 日本ヨット協会会長に関谷健哉氏就任。 5・18 第1回シルバー・カップ・レース“大島レース”(鎧鎧~初島~大島~鎧鎧)を日本ヨット協会協力のもと開催。参加17艇。優勝〈さくら〉(25 ft 日本大学 所要時間21 h 03 m), RORC ルールを採用。	9・18 サンフランシスコ講和条約調印。 〈ソプラニーノ〉大西洋横断に成功。
1952年 (昭27)	5・23 第2回シルバー・カップ・レース“大島レース”。参加12艇, 完走3艇。優勝〈インディペンデンス〉(23 ft 山口四郎)。 6・1 49 ft ケッチ〈わたりどり〉太平洋横断に横浜を出港。7・17 サンフランシスコに到着。 7・25 日本ヨット協会と CCJ が協同で日本外洋ヨット・レース (A区: 横浜~三崎, B区: 三崎~下田, C区: 下田~清水) を開催。参加5艇。優勝〈風早〉(国際6 m U.S. 海軍)。ハンディキャップを付けずに着順による得点の総計で競技した。	
1953年 (昭28)	5・1 第3回シルバー・カップ・レース“大島レース”。参加12艇, 優勝〈アルバトロス〉(22 ft, 新昭一)。荒天のため完走は3艇。 7・19 オリンピック・ヘルシンキ大会。日本選手団(小沢吉太郎団長, フィン級海徳敬次郎)派遣, 27位。 7・24 日本ヨット協会主催第2回日本外洋レース。参加6艇。優勝〈アルバトロス〉。日本ヨット協会のハンディキャップを使用。	4・9 日航「もく星号」三原山で墜落。 5・1 二重橋血のメーデー事件起る。 5・19 ボクシングで初の世界チャンピオン白井義男誕生。
1954年 (昭29)	1・21 CCJ を改組し, 日本オーシャン・レーシング・クラブ (Nippon Ocean Racing Club=NORC) 結成。設立当時の登録艇数は19艇。会長: 山口四郎, 副会長: A. A. マッケンジー, 技術顧問: 小山捷, 委員: 土井悦, 福永昭, 岡本豊,	

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>関根久, 渡辺修治, 横山晃。</p> <p>3・28 NORC 初の主催レースである木更津レース (横浜～木更津～横須賀) 開催。参加12艇。総合優勝〈さくら〉(日本大学)。ファースト・ホーム〈風早〉(U.S. 海軍)。</p> <p>4・24 館山レース (横浜～館山～横須賀)。参加12艇。総合優勝〈アルバトロス〉(新昭一)。ファースト・ホーム〈風早〉(U.S. 海軍)。</p> <p>5・28 第4回大島レース。参加艇12艇。総合優勝〈ムヤ〉(A.A. マッケンジー)。</p> <p>9・25 秋の館山レース。参加11艇。完走3艇。総合優勝〈ムヤ〉。</p> <p>10・9 第1回初島レース (葉山～伊東＝1泊～初島～葉山)。往路と復路の2レグに分けてその合計タイムで競技。参加9艇。総合優勝〈ムヤ〉。</p> <p>11・14 第2回木更津レース。参加10艇。総合優勝〈ドンガメⅣ〉(渡辺修治)。ファースト・ホームは〈ムヤ〉。</p>	<p>3・1 第5福竜丸水爆被災事件発生。</p>
1955年 (昭30)	<p>5・6 第6回大島レース。参加12艇。総合優勝〈フルール・ブルー〉(25 ft. 井上正春)。</p> <p>7・12 〈フルール・ブルー〉大阪に向けて横浜を出港。7・26 大阪に到着。</p> <p>8・5 第2回初島レース。参加12艇。Aクラス優勝〈風早〉(U.S. 海軍), Bクラス優勝〈ドンガメⅣ〉(渡辺修治)。</p>	<p>9・26 青函連絡船「洞爺丸」転覆。</p> <p>10・4 〈鳳凰丸〉太平洋横断に広島港出港。三上, 未光, 不島の3氏が同行し, 10・26高松を出港, 48日後にホノルルに到着。</p> <p>11・15 保守合同, 自由民主党結成。</p>
1956年 (昭31)	<p>1・19 NORC 関東支部が「関東ヨット協会」に加盟。</p> <p>3・31 第4回館山レース。参加19艇。総合優勝〈ドンガメⅣ〉(渡辺修治)。</p> <p>5・25 第7回大島レース。参加18艇。総合優勝〈ドンガメⅣ〉(渡辺修治)。ファースト・ホームは〈フルール・ブルー〉。</p> <p>7・26 第1回神子元島レース (葉山～神子元～葉山)。参加15艇。総合優勝〈古鷹〉(20 ft 福永昭)。ファースト・ホームは〈フルール・ブルー〉(井上正春)。</p> <p>10・19 第1回初島レース。以前の初島レースをやめ, 横浜～初島回航～葉山のコースとする。総合優勝〈どんがめⅣ〉(渡辺修治)。</p>	<p>7・29 アドミラルズ・カップ・シリーズ始まる。</p> <p>9月 アメリカズ・カップ復活。〈コロンビア〉vs〈セプター〉。4-0で〈コロンビア〉がカップを防衛。</p> <p>11. 25 メルボルン・オリンピック。日本代表選手派遣はならず, 岩田幸彰氏を視察員として派遣。</p> <p>12・18 日本の国連加盟決定。</p>
1957年 (昭32)	<p>NORC 安全規則制定。</p> <p>3・30 第5回館山レース。参加15艇。</p> <p>4・30 小豆島に瀬戸内海のクルーザー6艇がミーティング。</p> <p>5・17 第8回大島レース, 参加15艇。総合優勝〈古鷹〉(福永昭)。</p> <p>7・18 第2回神子元島レース。コースを鎧鎧～神子元～横浜(125哩)に変更。参加16艇。総合優勝〈黒潮〉(千葉大)。</p> <p>10・11 第2回初島レース。参加11艇。総合優勝〈古鷹〉(福永昭)。</p>	
1958年 (昭33)	<p>NORC 内海支部設立。</p> <p>3・22 第6回館山レース。</p>	



年号	主要事項	関連/社会事項
1959年 (昭34)	5・3 第9回大島レース。参加17艇。総合優勝〈ムヤ〉(A. A. マッケンジー)。	3・27 フルシチョフ、ソ連首相に就任。
	7・6 〈わたりどり〉クルーの1人鎮目守治氏、米艇〈Ramona〉にて日本人として初めてホノルル・レースに参加。	6・1 仏ド・ゴール内閣成立。
	7・31 第3回神子元島レース。	12・1 1万円札発行。
	10・24 第3回初島レース。 内海のレース活動が活発化。関西ヨット協会主催第2回関西長距離ヨットレース開催(西宮～洲本)。 内海支部主催西宮～和歌浦レース開催。	
	3・21 第7回館山レース。参加15艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈シャーク8〉(吉川)。	
	5・3 第10回大島レース。参加16艇。総合優勝〈フライング・フィッシュⅢ〉(巴工業)。ファースト・ホームは〈ムヤ〉(A. A. マッケンジー)。後半暴風のため5艇がDNF。	4・10 皇太子殿下御成婚。
	7・18 関西ヨット協会主催第3回関西長距離ヨットレース。参加9艇。総合優勝、ファースト・ホーム〈ツイン・スター〉(秋田博正)。	9・26 伊勢湾台風。
1960年 (昭35)	7・24 第4回神子元島レース。コースを葉山～利島～神子元～葉山に変更。参加16艇。総合優勝〈仰秀〉(東京大学)。超微風のため完走は6艇のみ。	11・11 貿易の自由化。
	10・17 第4回初島レース。台風接近のためコースを短縮。初島を回らず横浜～葉山間で挙行。参加13艇。総合優勝〈ジョビアル・ファイブ〉(小田)。	
	東海支部発足。	
	4・28 第1回下田レース。この年から館山レースはなくなり、下田レース(小網代～下田)となる。Aクラス優勝〈黒潮〉(千葉大学)、Bクラス優勝〈マヤⅡ〉(市川・池田)。	
	5・27 第11回大島レース。参加16艇。総合優勝〈月光〉(久保田)。	
	6・15 NORC 会長山口四郎氏(巴工業社長)急逝。	
	7・16 紀伊水道横断洲本レース。Y19(塚本修)が優勝。	
	8・5 第1回岡田レース(横浜～大島・岡田)。参加16艇。総合優勝〈シャークⅦ〉(関根久)。ファースト・ホームも〈シャークⅦ〉。	6・11 第1回大西洋シングルハンド・レース・スタート。参加5艇。タイム・アローワンスなしで行なわれ、優勝は〈ジブシー・モスⅢ〉(フランス・チチェスター)。
	8・5 第1回鳥羽パール・レース(横浜～鳥羽)。参加4艇。総合・Bクラス優勝〈チタ〉(チタ・グループ 所要時間93 h 32 m)、Aクラス優勝〈さがみⅡ〉(飯島元次 所要時間91 h 20 m)。ファースト・ホームは〈さがみⅡ〉。	8・25 第17回オリンピック・ローマ大会。日本より堀江喜三監督の下、フィン(穂積八洲雄=23位)、スター(山田水域・酒井原良松=26位)、ドラゴン(石井正行・川田節郎・岡本豊=22位)が参加した。
	10・9 関東学生外洋レース開催(横浜～初島～葉山)。参加5艇。優勝〈黒潮〉(千葉大学)。	10月日本ヨット協会関谷健哉会長が辞任し、山県勝見会長が就任。同氏で3代目となる。
	11・5 第5回初島レース(走水～初島～葉山に変更)。参加22艇。Aクラス優勝〈さがみⅡ〉(飯島元次)、Bクラス優勝〈パレリーナ〉(クリスチャンセン)。	京急油壺ヨッテル開設。

年号	主要事項	関連/社会事項
1961年 (昭36)	<p>1960年6月に前会長山口四郎氏急逝以来空席となっていた会長に、前日本ヨット協会会長関谷健哉氏が就任。</p> <p>3・18 第1回伊東レース(小網代～伊東, 20日伊東～小網代の2レグで行なう)参加26艇。総合優勝〈さがみⅡ〉(飯島)。</p> <p>4・23 東海支部主催四日市レース(鬼崎～四日市～鬼崎)。優勝〈Lyra〉(NUYC)。</p> <p>4・28 第2回下田レース。総合優勝〈しおかぜ〉(山本)。</p> <p>5・27 第12回大島レース。参加24艇。総合優勝〈マヤⅡ〉(市川)。</p> <p>7・28 第2回鳥羽パール・レース(コースを鳥羽～横浜に変更)。参加19艇。総合優勝〈どんがめⅥ〉(渡辺修治)。ファースト・ホームは〈白鳳〉。</p> <p>8・12 関西ヨット協会主催第5回関西長距離ヨットレース(西宮～洲本)。参加10艇。優勝〈リトルキング〉(山口, 長畑 Y 19)。</p> <p>8・15 内海支部主催第4回紀伊水道レース(新和歌浦～友ヶ島～沼島～蟻島～新和歌浦)参加9艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈カラーサ〉(Y19 鹿島郁夫)。</p> <p>10・14 学生外洋レース(横浜～初島～横浜)。優勝〈べんけいⅡ〉(法政)。ファースト・ホーム〈早風〉(早大)。</p> <p>10・15 東海支部主催蒲郡レース。優勝〈ネイビーブルー〉(NBCC)。</p> <p>11・7 関東支部主催第6回初島レース。参加27艇。総合優勝〈ドンガメⅥ〉(渡辺修治)。</p> <p>12・4 伊豆急開通記念下田レース。参加16艇。総合優勝〈イーグル〉。</p>	<p>7・4 ホノルル・レース(トランスパック・レース)。参加41艇。練習帆船〈日本丸〉〈海王丸〉が特別参加。</p> <p>8・7 西宮, 須磨, 的形のY19セーラーが集まり「Y19クラブ」結成。会長D.J. カイリー氏。</p> <p>9・23 Y19クラブ主催第1回大阪湾横断レース(須磨～淡輪)。優勝〈ボレアス〉(合田, 井上, 佐藤)。</p> <p>12月 日本舟艇振興会(業者団体)発足。</p> <p>12月 日本ヨット協会, 岸記念体育館内に新事務所開設。</p>
1962年 (昭37)	<p>3・23 神子元島レース。参加9艇。総合優勝〈さがみⅡ〉(飯島元次)。ファースト・ホーム〈サルモンⅡ〉(富永弘)。</p> <p>3・23 初島レース。参加20艇。総合優勝〈フラミンゴ〉。</p> <p>3月 〈コンテッサⅡ〉(石原慎太郎), 第1回チャイナシー・レースに出場。日本の外洋ヨット初の国際レース参加。成績4位。</p> <p>4・14 下田レース(下田～小網代)。参加11艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>4・15 東海支部主催オープン・レース。参加5艇。優勝〈ライラ〉。</p> <p>5・5 第13回大島レース。参加32艇。総合優勝〈アーゴノート〉, ファースト・ホーム〈さがみⅡ〉(飯島元次)。</p> <p>5・5 東海支部蒲郡レース。優勝〈ルナ〉。</p> <p>7・7 内海支部第5回紀伊水道レース(新和歌浦～沼島～蟻島～新和歌浦)。優勝〈コンパス・ローズ〉(林茂)。ファースト・ホーム〈ツインスター〉(秋田博正)。</p> <p>7・27 第3回鳥羽パール・レース。参加32艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈バレリーナ〉(クリスチャンセン)。</p> <p>8・12 堀江謙一氏〈マーメイド〉(19ft)にて単独太平洋横断に成功し, サンフランシスコ到着(5・12に西宮出港)。</p> <p>9・7 半年の予定で「NORCヨット教室」開催。</p> <p>11・3 初島および利島レース。参加43艇(内32艇は初島, 11艇が利島回り)。初島レース〈翔鶴〉がファースト・ホーム。利島</p>	<p>4・17～19 第1回東京ボートショー開催。主催日本舟艇振興会。会場=東京体育館</p> <p>4・29 Y19クラブオープニング・レース。参加8艇。優勝〈ミネルバ〉(貴伝名, 杉本, 大橋)。</p> <p>9・15 アメリカズ・カップ。〈ウエザリー〉vs〈グレーテル〉(豪)4-1で〈ウエザリー〉が防衛。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
1963年 (昭38)	<p>レース〈イーグル〉のみ完走。このレースで〈早風〉(早大)、〈ミヤ〉(慶応)の2艇が行方不明。乗員10名(早風=三原隆四、小島信浩、青柳充洪、手塚次夫、上田淳一、斉藤元紀、ミヤ=寺田辰六、松宮雄一、松宮清、吉岡義哲の各氏)が行方不明。及び〈ノブチャン〉の井関幸雄氏が落水して行方不明となる。</p> <p>関東支部組織刷新。東京湾、横須賀、油壺、小網代、葉山の5フリートを結成。</p> <p>3・23 初島レース。参加26艇。総合優勝〈モサⅡ〉ファースト・ホームは〈さがみⅡ〉。</p> <p>4・28 第14回大島レース。参加21艇。総合優勝〈アオレレ〉(住友S.C.)。ファースト・ホーム〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>5・2 内海支部主催小豆島ランデブー。参加13艇。</p> <p>7・4 トランスパック・レースに〈コンテッサⅢ〉(石原裕次郎)が参加。26位。</p> <p>7・26 第4回鳥羽パール・レース。参加24艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈竜王丸〉(陳秀雄)。</p> <p>9・20 神子元島レース。参加10艇。総合優勝〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>10・20 東海支部第3回蒲郡レース。参加4艇。優勝〈ネイビーブルー〉。</p>	<p>4・28 〈コンパスローズⅡ〉(林茂、柏村勲)日本一周に的形を出港。</p> <p>9・24 日本ヨット協会理事山口良一氏死去。行年44歳。</p> <p>10・4 セール・メーカー大原弘山製帆所主大原多美雄氏死去。行年60歳。</p> <p>11・22 ケネディー米大統領暗殺される。</p>
1964年 (昭39)	<p>1・23 日本外洋帆走協会設立のための発起人会が開かれる。関谷会長、飯島元次、植田一信、渡辺修治、土肥勝由、横山晃、福元弘、田山のメンバー(銀座オリンピックにて)。</p> <p>2・1 NORC(日本オーシャン・レーシング・クラブ)が、社団法人日本外洋帆走協会(略称・呼称は従来通りNORC)に改組。初年度役員は(会長)関谷健哉。(副会長)古屋徳兵衛、秋田博正。(専務理事)飯島元次。</p> <p>2・16 第1回理事会(飯島商店にて)</p> <p>3月 第2回チャイナシー・レースに〈コンテッサⅡ〉(石原慎太郎)が参加。</p> <p>3・20 学習院大学ヨット部〈翔鶴〉(29ft)が3・21小網代スタートで行われる予定だった初島レース参加の為廻航中、三浦半島南岸の岩場にて遭難。市村善忠、大野繁郎、麻生次郎、松平永忠、若林克人の各氏が死亡。</p> <p>5・4 神津島レース(下田~神津島~城ヶ島)。</p> <p>5・3 野島レース(鬼崎~野島~鬼崎)。</p> <p>5・22 NORC 海技教室が朝日新聞社後援で開講。</p> <p>5・23 第15回大島レース。参加24艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>7・24 第5回鳥羽パールレース。参加19艇。総合優勝〈ノブチャン〉ファースト・ホーム〈K-7〉。</p> <p>8・15 第8回洲本レース。参加12艇。優勝〈又文〉。</p> <p>10・31 神子元島レース(コース:小網代スタート、神子元島反時</p>	<p>3・10 岡本造船所の岡本酒造氏が急逝。行年70歳。</p> <p>8・15 関西ヨットクラブ結成。</p> <p>8・22 ドラゴン級を除くオリンピック4種目(フィン級、FD級、スター級、5.5m級)の日本代表選手最終選考会。</p> <p>9・19 東京ボート株式会社社長鈴木享氏が急逝。行年61歳。</p> <p>10・10 国鉄東海道新幹線開通。</p> <p>10・10 第18回オリンピック東京大会開催(江の島)。成績はフィン級15位(33隻)、FD級15位(21隻)、スター級13位(17隻)、ドラゴン級17位(23隻)、国際5.5 14位(15隻)。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>計廻、城ヶ島フィニッシュ。出場16艇。総合優勝〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>10・11 蒲郡レース。参加9艇。優勝〈ネイビー・ブルー〉</p> <p>11・22 小網代カップ・レース。参加17艇。優勝〈コンテッサⅡ〉(石原慎太郎)。</p> <p>11・23 第2回高松レース。優勝〈ミネルバⅡ〉(貴伝名一良)。11・21 竹生島レース。</p> <p>12・13 第1回相模湾ポイントレース。参加24艇。優勝〈イーグル〉(松田)。ファースト・ホーム〈コンテッサⅡ〉。</p>	11・24 千葉県沖でシーホース68号艇遭難。
1965年 (昭40)	<p>1・17 第2回相模湾ポイントレース。参加21艇。優勝〈ジョヴィアルV〉。</p> <p>2月 第3回相模湾ポイントレース。優勝〈シレナ〉(大儀見薫)。ファースト・ホーム〈汐風〉。</p> <p>4・3 初島レース(小網代湾外スタート)。参加20艇。総合優勝〈モサⅡ〉。ファースト・ホーム〈ロータス〉。</p> <p>4・10 NORC 事務局、中央区日本橋北新堀町から港区琴平町35船舶振興ビル日本海事広報協会内へ移転。</p> <p>5・2 下田南進黒潮レース。参加13艇。優勝〈シェダー〉。</p> <p>6月 京都支部発足。(後の近畿北陸支部) 横浜～神戸レース。</p> <p>6・13 京都支部第1回堅田～沖ノ島レース。参加6艇。</p> <p>7月 トランスバック・レース。〈コンテッサⅡ〉(石原裕次郎, 49位), 〈チタⅡ〉(丹羽由昌, 53位)。 東海支部熊野灘レース(浜島～鬼崎～尾鷲崎)。参加5艇。優勝艇〈ケリダ〉(ブラザーミシン)。ファースト・ホーム〈タートル〉(竹内佐知彦)。</p> <p>7・12 紀伊水道レース。参加6艇。優勝〈ビーバーⅢ〉。ファースト・ホーム〈さちかぜ〉。</p> <p>7・23 第6回鳥羽パールレース。全艇タイムリミットで、ノーレース。</p> <p>8・14 第9回洲本レース。参加12艇。優勝〈ドルフィンⅢ〉。ファースト・ホーム〈琴塚〉。</p> <p>8月 東海支部三河湾レース。</p> <p>9・25 初島レース。</p> <p>9・26 東海支部蒲郡レース。参加9艇。優勝〈カレン〉(大野)</p> <p>10・22 神子元島レース。参加8艇。優勝, ファースト・ホーム〈チルデ〉。</p> <p>11・20 小網代カップレース。参加13艇。優勝およびファースト・ホーム〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>11・20 内海支部高松レース。的形港～高松港。</p> <p>12月 関谷健哉氏(NORC 会長・横浜海洋科学博物館長), 勲2等瑞宝章授与。</p>	<p>2・7 米機北爆開始。 ベトナム戦激化。</p> <p>「テンペスト」国際級に採用。 江の島ヨットクラブにOP級入る。 少年ヨット活動始まる。 ヨット協会誌「YACHT」復刊。</p> <p>7・1 名神高速道路全通。 ワントン・カップ始まる。 (レーティング27.5 ft)。</p>
1966年 (昭41)	<p>1・30 第1回相模湾ポイントレース。第2コース(小網代～江の島～葉山～小網代)で行なわれる。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p>	1月 大学紛争始まる。

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>2・27 第2回相模湾ポイントレース。優勝〈ロータス〉。</p> <p>3月 第3回チャイナシー・レースに〈ふじ〉(陳秀雄, DNF), 〈月光Ⅱ〉(久保田正敬, 12位) が参加。</p> <p>4・2 初島レース。20時小網代スタート, 小網代～初島～小網代。総合優勝〈ジョビアル-5Ⅱ〉。ファースト・ホームは〈ロータス〉。</p> <p>5・4 黒潮南進レース (下田～神子元～城ヶ島)。暴風雨のため1日延期, コースも変更して行なわれた。総合優勝〈はやとり〉。ファースト・ホーム〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>5・15 第3回相模湾ポイントレース。18隻参加。優勝〈モサⅢ〉。</p> <p>5・28 第16回大島レース。正午葉山スタート, 参加21隻。総合優勝〈トンガ〉。ファースト・ホーム〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>6・12 第4回相模湾ポイントレース。参加19隻。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>6・25 初島レース。参加19隻。総合優勝およびファースト・ホーム〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>7・17 第5回相模湾ポイントレース。江の島～葉山～小網代湾フィニッシュ。参加14隻。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>7・29 第7回鳥羽パールレース。参加艇17隻。総合優勝〈モサⅢ〉(小泉信一)。ファースト・ホームはオランダの73 ft. 外洋レーサー〈ストーム・フォーゲル〉。</p> <p>8・7 NORC「熱海ランデブー」開催。 東海支部三河島湾レース。優勝, ファースト・ホーム〈ライラ〉。</p> <p>8・14 第6回相模湾ポイントレース。参加17隻。優勝〈トンガ〉。</p> <p>9・11 第7回相模湾ポイントレース。参加20隻。優勝〈トンガ〉。</p> <p>10・2 東海支部蒲郡レース。参加9隻。総合優勝〈タートル〉。</p> <p>10・2 第8回相模湾ポイントレース。参加9隻。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>10・21 神子元島レース。参加13隻。総合優勝〈モサⅢ〉。ファースト・ホーム〈稲竜〉。</p> <p>10・22 初島レース。参加13隻。ファースト・ホーム及び総合優勝〈ロータス〉。</p> <p>11・13 第9回相模湾ポイントレース。参加15隻。優勝〈K-7〉。</p> <p>11・2 内海支部高松レース。的形～高松 (43マイル)。参加9隻。ファースト・ホーム及び総合優勝〈リヒト〉(甲南大学)。</p> <p>11・26 第4回小網代カップレース。参加17隻。優勝〈シレナ〉(大儀見薫)。ファースト・ホーム〈稲竜〉(栗原宣明)。</p> <p>12・11 第10回相模湾ポイントレース。参加17艇。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p>	<p>2・4 全日空機羽田沖に墜落。</p> <p>4月 中国社会主義文化大革命起る。</p> <p>5月 第1回ワン・オブ・ア・カインド・レガッタ開催。 1/2トン・カップ始まる。</p>
1967年 (昭42)	<p>1・22 第1回相模湾ポイントレース。参加23艇。優勝〈竜王丸〉。</p> <p>2・19 第2回相模湾ポイントレース。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>2・26 西部内海支部を改め, 西内海支部の名称により結成。 NORC レース旗を制定。</p> <p>3・19 第3回相模湾ポイントレース。</p> <p>4・1 初島レース。参加19艇。総合優勝〈ケロニア〉。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p>	<p>11・12 極東選手権が香港にて開催。(日本総合3位)。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>4・16 第4回相模湾ポイントレース。参加艇19艇。優勝〈コンテッサⅡ〉。</p> <p>5・3 第1回八丈島レース。参加5艇。優勝〈チタⅡ〉(丹羽由昌)。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>5・5 第1回大島廻航レース。参加艇13隻。優勝〈ケロニア〉(大谷正彦)。ファースト・ホーム〈竜王丸〉(馬場邦彦)。</p> <p>5・14 第5回相模湾ポイントレース。参加艇21隻。優勝〈竜王丸〉。</p> <p>5・27 第17回大島レース。参加艇28隻。総合優勝〈モサⅢ〉(守屋克己)。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>6・11 第6回相模湾ポイントレース。参加艇24隻。優勝〈竜王丸〉。</p> <p>6・24 初島レース。参加艇29隻。総合優勝〈ケロニア〉(大谷正彦)。ファースト・ホーム〈潮風Ⅲ〉(竹下政彦)。</p> <p>7・9 第7回相模湾ポイントレース。参加艇16隻。優勝〈竜王丸〉。</p> <p>7・16 関東支部上半期表彰式(江の島ヨットクラブ)。</p> <p>7・28 第8回鳥羽パールレース。参加艇22隻。総合優勝〈ミス・サンバード〉。</p> <p>8・13 第8回相模湾ポイントレース。参加艇24隻。</p> <p>8・27 関東支部主催「クルーザー海洋教室」。協賛艇12隻43名。</p> <p>9・3 第9回相模湾ポイントレース。総合優勝〈モサⅢ〉。</p> <p>10・1 第10回相模湾ポイントレース。</p> <p>10・20 第12回神子元島レース。参加艇21隻。総合優勝〈シレナ〉(大儀見薫)。</p> <p>10・28 第3回初島レース。</p> <p>11・3 相模湾葉山沖にて〈ジョビアルV-1〉(武蔵工大所有)遭難。</p> <p>11・25 第5回小網代カップレース。参加13隻。総合優勝およびファースト・ホーム〈飛車角Ⅱ〉(名和幸夫)。</p>	<p>キングフィッシャー協会の第3回親善レース。</p> <p>6・11 全日本学生モーターボート選手権。優勝福岡大。</p> <p>9・12 アメリカズ・カップ〈インレビッド〉が防衛。</p> <p>9・17～20 第22回国体開催。ヨット競技優勝茨城。</p> <p>10・8 第1次羽田事件。</p> <p>10・20 吉田茂死去(戦後初の国葬)。</p> <p>〈ジブシーモスⅣ〉でフランシス・チェチェスター(65歳)が単独世界一周(226日間)に成功。</p> <p>1/4トン・カップ始まる。</p> <p>11・25 Y-15遭難。</p>
1968年 (昭43)	<p>1・21 第1回相模湾ポイントレース。参加22艇。優勝〈天城〉。他艇は全艇DNF。</p> <p>2・18 第11回理事会にて、小笠原レース計画案が出される。(渡辺、角田理事)。役員は関谷健哉氏(会長)、古屋徳兵衛、秋田博正氏(副会長)、大儀見薫氏(専務理事)。</p> <p>4・5 〈ミス・サンバード〉(山崎達光)と〈ミネルバⅢ〉(貴伝名一良)の2艇がチャイナシー・レースに参加。〈ミネルバⅢ〉、〈ミス・サンバード〉は、それぞれ5位と9位。</p> <p>4・28 大島廻航レース。</p> <p>5・2 第2回八丈島レース。下田スタート。参加艇6隻。優勝およびファースト・ホーム〈天城〉(渡辺修治)。</p> <p>5・25 第18回大島レース。</p> <p>6・8 京都支部多景島レース。沖の島～多景島～白石～沖の島。</p> <p>6・9 第6回相模湾ポイントレース。参加艇27艇。前期6戦終了。前期総合優勝〈はやまる〉。JOGカップ〈明日香〉(加藤栄美)。</p> <p>6・29 初島「舵」杯レース。参加艇17隻。優勝〈明日香〉(加藤栄美)。ファースト・ホーム〈モサⅢ〉。</p> <p>7・20 内海支部紀伊水道レース。</p> <p>7・25 第1回太平洋横断レースにおいてスローカム協会に協力す</p>	<p>6月 神奈川県小網代湾にシーボニア・ヨットハーバー開設。シーボニア・ヨットクラブ設立。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>ることを決定（第13回理事会）。</p> <p>7・26 第9回鳥羽パールレース。参加艇26隻。強風の為、全艇 DNF。</p> <p>8・10 NORC 主催クルーザー夏祭り。シーボニア・ヨットクラブ前にて開催。</p> <p>8・15 西内海支部にて別府フリート結成。</p> <p>8・17 第1回別府レース（別府湾第4号灯標～山口県八島）。参加8艇。優勝〈牛若丸〉。ファースト・ホーム〈琴塚〉。</p> <p>8・18 「NORC 海洋教室」開催。</p> <p>10・5 西内海支部柱島レース（宮島～手島～絵の島）。優勝〈やしろ〉。</p> <p>10・5 京都支部竹生島レース。</p> <p>10・18 神子元島レース。</p> <p>10・26 初島レース。</p> <p>11・3 相模湾クラスV親善レース。参加13艇。優勝〈あすなろ〉。</p> <p>11・22 内海支部高松レース。参加10艇。優勝〈甲竜Ⅰ〉。</p> <p>11・23 第6回小網代カップレース。参加22艇。優勝〈オリンパスⅢ〉（落合公平）。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p> <p>12・5 東海支部、年度表賞式ならびに年末例会。</p> <p>12・8 相模湾ポイントレース。参加21艇。優勝〈はやまる〉。</p>	<p>10月 第19回オリンピック・メキシコ大会。NORC のメンバー陳氏、メキシコ五輪ドラゴン級に出場。</p> <p>10・17 川端康成ノーベル文学賞受賞。</p> <p>12・10 府中で3億円事件起る。</p>
1969年 (昭44)	<p>太平洋横断シングルハンド・レース（スローカム協会主催）に協力。IOR 制定。1970年より発効。</p> <p>1・26 東海支部、〈チタⅢ世〉の壮行会が行なわれる。</p> <p>2・9 相模湾ポイントレース。</p> <p>2・20 内海支部、オーナー会議が開催される。</p> <p>3・9 東海支部、第8回海技教室が開かれる。</p> <p>3・16 第2回相模湾ポイントレース。参加26艇。</p> <p>3・21 東海支部第2回伊勢湾ポイントレース。優勝〈しゃち〉。</p> <p>4・2 東海支部第1回造艇懇話会が開催される。</p> <p>4・5 初島レース。参加23艇。優勝およびファースト・ホーム〈くろしおⅡ〉。</p> <p>4・6 東海支部伊勢湾レース。優勝〈あや〉。</p> <p>4・19 東海支部、小牧救難航空隊を見学する。</p> <p>4・20 第3回相模湾ポイントレース。</p> <p>4・26 第3回大島廻航レース。参加14艇。総合優勝〈レッドシャーク〉。（関根久）。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p> <p>5・1 第3回八丈島レース。小網代スタート。参加6艇。優勝〈はやまる〉。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p> <p>5・3 西内海支部ランデブー開催。</p> <p>5・24 第19回大島レース。参加25艇。総合優勝〈竜王〉。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p> <p>6・8 相模湾ポイントレース。参加29艇。</p> <p>6・28 初島レース。参加23艇。優勝〈ベラ〉（武市俊）。ファースト・ホーム〈シマ〉（長谷川喜一郎）。</p> <p>7月 トランスバック・レースに〈チタⅢ〉（丹羽由昌、47位）が</p>	<p>1・18 東大安田講堂事件。</p> <p>1・20 ニクソン米国大統領就任。</p> <p>3・15 太平洋単独横断レース（サンフランシスコ～城ヶ島）で〈ペンデュックⅤ〉（タバルリー）優勝（39日間）。</p> <p>フィン級太平洋選手権開催（11カ国28隻）。</p> <p>6・8 ベトナムの米軍撤退開始。</p> <p>7・20 アポロ11号で人類月に第1歩を記す。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>参加。</p> <p>7・25 第10回鳥羽パールレース。参加28艇。総合優勝〈ベガⅢ〉(宮沢秀夫)。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>8・2 シーボニアヨットクラブにて「夏まつり」開催。</p> <p>8・17 内海支部洲本レース。参加18艇。</p> <p>8・31 第3回「クルーザー教室」開催。参加者40名。</p> <p>9・7 相模湾ポイントレース。参加34艇。</p> <p>9・21 西内海支部ダイヤモンドレース。優勝〈アンタレス〉。</p> <p>10・12 相模湾ポイントレース。</p> <p>11・6 相模湾ポイントレース。</p> <p>11・14 第14回神子元島レース。参加23艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈竜王〉。</p> <p>11・15 西内海支部柱島レース。</p> <p>11・22 第7回小網代カップレース。参加28艇。総合優勝〈くろしおⅡ〉(小林敏男)。</p> <p>12・26 シドニー〜ホバート・レースに〈バーゴ〉(武田陽信, 21位)が参加。</p>	
1970年 (昭45)	<p>1・15 中部支部伊勢湾ポイントレース。参加5艇。優勝〈ゼロ〉。</p> <p>2・8 相模湾ポイントレース。</p> <p>2月の理事会にて、関谷健哉氏(会長)、古屋徳兵衛、秋田博正氏(副会長)、大儀見薫氏(専務理事)を再選。</p> <p>3月 第5回チャイナシー・レースで〈チタⅢ〉(丹羽艇長)が総合優勝を果たす。総合2位は〈エビキュリアンⅡ〉(東海支部)。</p> <p>4・4 初島レース。参加27艇。</p> <p>4・25 大島廻航レース。参加17艇。</p> <p>5・1 第4回八丈島レース。参加9隻。総合優勝およびファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>5・9 第20回(緊急)理事会。角田東海支部長より会員艇〈エビキュリアンⅡ〉の密輸事件の経過詳細説明あり。</p> <p>5・23 第20回大島レース。参加29隻。</p> <p>7・24 第11回鳥羽パールレース。参加47艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈竜王〉。</p> <p>8・1 「NORC 夏まつり」シーボニア・ヨットハーバーで開催。</p> <p>8月 第8回相模湾ポイントレース。参加31艇。</p> <p>9・6 第9回相模湾ポイントレース。参加34艇。サマーシリーズ・レース総合成績。クラスⅠⅡⅢ混合、クラスⅢ優勝〈竜王〉。クラスⅠ優勝〈K-7〉。クラスⅡ優勝〈コンテッサⅡ〉。クラスⅣⅤ混合、クラスⅣ優勝〈ベガⅢ〉。クラスⅤ優勝〈ホリデイ〉。</p> <p>10・9 第15回神子元島レース。参加24艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>10・9 第13回紀伊水道レース。参加7艇。優勝〈白峰Ⅱ〉(松岡敏)。</p> <p>11・15 第11回相模湾ポイントレース。参加28艇。</p>	<p>3・15 大阪万国博覧会開幕。</p> <p>3・31 日航機「よど号」乗っ取り事件。</p> <p>11・25 三島由紀夫割腹自殺。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>11・23 第8回小網代カップ・レース。参加21艇。総合優勝〈メルジーネ〉(武部喜一)。ファースト・ホーム〈K-7〉(栗林定友)。</p> <p>12・6 NORC 内海支部主催第1回高松ポイントレース。参加8艇。優勝〈でんぶくⅡ〉。</p>	<p>学連制式艇に470級採用。</p> <p>第6回アジア大会ヨット競技にFD, OK, モス級優勝。</p>
1971年 (昭46)	<p>1・30 第1回相模湾ポイントレース。参加33艇。</p> <p>3・14 第1回相模湾小型クルーザーレース。参加17艇。優勝〈さら文〉。</p> <p>3・21 内海支部主催岡山ヨット・クラブ結成記念レース。参加12艇。優勝〈こんべえ〉。</p> <p>4・10 初島レース。参加36艇。総合優勝〈竜王〉。</p> <p>5・1 第5回八丈島レース。参加15艇。優勝〈竜王〉(陳秀雄)。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉(山崎達光)。</p> <p>5・2 西内海支部主催別府レース。参加17艇。優勝〈しらみねⅠ〉。</p> <p>5・8 第5回大島廻航レース。参加22艇。総合優勝〈竜王〉。</p> <p>5・23 大阪湾横断レース。参加16艇。優勝〈アルティミス〉。</p> <p>6・12 第24回理事会にて翌年の1972年に那覇〜城ヶ島国際レースを実施することを決定。</p> <p>6・19 初島レース。参加43艇。総合優勝〈竜王〉。</p> <p>6・29 東海支部の〈白雲〉(榎原伊三氏2名)が世界一周達成。</p> <p>7・18 衣浦再発足記念レース。総合優勝〈アヤ〉。ファースト・ホーム〈エビキュリアン〉。</p> <p>7・30 第12回鳥羽パールレース。参加62艇。鳥羽〜城ヶ島。総合優勝〈ベガ〉。ファースト・ホーム〈ミス・サンバード〉。</p> <p>8・14 NORC 内海支部夏まつり。</p> <p>8・16 NORC 関東支部夏まつり。</p> <p>9・12 ジャパンカップ・レース(稲取レース)。Aクラス1位〈コンテッサⅡ〉, Bクラス1位〈竜王〉。</p> <p>9・12 第3回衣浦ポイントレース。参加10艇。総合優勝〈サイキ〉。ファースト・ホーム〈チタⅢ〉。</p> <p>10・1〜3 第16回神子元島レース。参加27艇。ファースト・ホーム〈ロシナンテ〉。クラスⅠ〜Ⅴ優勝〈旭Ⅱ〉。クラスⅣ優勝〈昌代〉。</p> <p>10・24 第6回播磨灘クラスⅤレース。参加26艇。優勝〈ドンジリⅡ〉。</p> <p>11・20 第9回小網代カップレース。参加艇20隻。優勝〈サンバードⅡ〉。</p> <p>12・2 東海支部冬まつり開催。</p> <p>12・4 高松レース。参加18艇。</p> <p>12・12 内陸支部第5回高松ポイントレース。</p> <p>12・22 関東支部冬まつり開催。</p> <p>12・29 シドニー〜ホバート・レース。日本艇〈パーゴⅡ〉は総合36位。</p>	<p>1・22 ドラゴン世界選手権大会。参加16艇。</p> <p>6月 沖縄返還協定調印。</p> <p>7・14 トランスバック・レース。〈ウインドワード・パッセージ〉が完全優勝。</p> <p>7・29 アドミラルズ・カップ。英国が優勝。</p> <p>9・5〜9・8 第26回国民体育大会ヨット競技。</p> <p>10月 中華人民共和国、国連に加盟。</p> <p>12・5 シーラス148号艇遭難。稲村ヶ崎沖。3名死亡。</p>
1972年 (昭47)	<p>2・26 クラブハウス委員会により、クラブハウスとして城ヶ島灯台博物館護受案が出される。関谷健哉氏(会長), 古屋徳兵衛, 秋田博正氏(副会長), 大儀見薫氏(専務理事)再選。</p>	<p>1・24 グァム島で横井庄一元日本兵発見。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>3・12 相模湾ポイントレース。参加19艇。優勝〈サンバードⅡ〉。</p> <p>3・19 相模湾ポイントレース。参加18艇。優勝〈バーバリアンⅡ〉。</p> <p>3・20 三崎沖にて〈オリンパスⅢ〉が遭難。3名死亡。</p> <p>3・27 第6回チャイナシー・レースに〈チタⅢ〉(丹羽由昌, 3位)が参加。</p> <p>4・1 NORC 事務局が港区芝罘平町の船舶振興ビル3Fに移転。</p> <p>4・16 相模湾ポイントレース。参加艇37隻。総合優勝〈シマⅡ〉。</p> <p>4・29 第1回沖縄〜東京レース。参加12艇。830浬。総合優勝〈チタⅢ〉(所要時間108h 32m 17s)。</p> <p>4・29 第6回大島廻航レース。参加艇34隻。総合優勝〈シーファラーⅢ〉。</p> <p>5・3 内海支部ランデブー。</p> <p>5・13 第1回玄海レース。参加15艇。優勝〈山笠〉(福岡フリート)。</p> <p>5・27 第22回大島レース。参加39艇。総合優勝〈くろしお〉。</p> <p>6・17 内海支部臨時総会、関西ヨットクラブにて開催。</p> <p>6・24 第2回初島レース。参加50艇。優勝〈クレージー・ブルー〉。</p> <p>7・28 第13回鳥羽パールレース。参加艇68隻。総合優勝—IOR クラス〈レナ〉, RORC クラス〈たけし〉。</p> <p>8・13 第3回相模湾ポイントレース。参加艇13隻。優勝〈旭Ⅱ〉。</p> <p>9・10 第3回高松ポイントレース。参加14艇。総合優勝〈ドンドロ〉。</p> <p>9・16 佐世保レース。27浬。参加11艇。総合優勝〈志摩〉。</p> <p>10・10 第1回葉山カップレース。参加16艇。ファースト・ホーム〈サンバードⅡ〉。</p> <p>10・20 第17回神子元島レース。参加33艇。総合優勝〈シー・ファラーⅢ〉。</p> <p>11・3 第3回初島レース。参加艇53隻。総合優勝〈リーディング・レディー〉。</p> <p>11・18 第10回小網代カップ。参加27隻。総合優勝〈ローデムⅢ〉。ファースト・ホーム〈旭Ⅱ〉。</p> <p>12・9 ワントン・カップ(シドニー)に〈サンバードⅡ〉(山崎達光, 14位)が参加。〈サンバードⅡ〉はシドニー〜ホバート・レースにも参加した(24位)。〈バーゴⅡ〉(武田陽信)は50位。</p>	<p>2・3 札幌冬期オリンピック開幕。</p> <p>5・15 沖縄祖国復帰。</p> <p>6・4 第90回キールウィーク。参加国33ヶ国, 参加艇800隻。</p> <p>6・11 大西洋横断シングル・ハンド・レース開催。</p> <p>6・16 バミュエダ・レース開催。</p> <p>6・18 ジャパンカップ参加12艇で開催。</p> <p>7・14 470級ヨーロッパ選手権に日本チーム出場。</p> <p>8・28 キールにおいてミュンヘン・オリンピック・ヨット競技開催。日本フィン級27位, FD 級19位。</p> <p>9月 日中国交回復。</p>
1973年 (昭48)	<p>2月 初代会長関谷健哉氏, 会長を辞任し, 名誉会長となる。</p> <p>3・4 第1回相模湾ポイントレース。参加46隻。</p> <p>3・18 第2回相模湾ポイントレース。参加46隻。</p> <p>4・1 第3回相模湾ポイントレース。参加45隻。</p> <p>4・14 初島レース。参加54隻。クラスⅠ〜Ⅴ総合優勝〈サンバードⅡ〉。クラスⅥ〜Ⅶ総合優勝艇〈トレーサー〉。</p> <p>5・3 八丈島レース。参加25隻。ファースト・ホームおよびクラスⅠ〜Ⅲ優勝〈サンバードⅡ〉。クラスⅣ〜Ⅴ優勝〈ローデムⅢ〉。</p> <p>5・5 東海支部熊野レース。総合優勝〈グランパス〉。ファースト・ホーム〈ナイトⅡ〉。</p> <p>5・19 第23回大島レース。参加46隻。クラスⅠ〜Ⅴ優勝〈サン・ス</p>	<p>1月 ベトナム和平協定調印。金融引き締め, 円為替を変動為替に移行。</p> <p>4月 ウォーターゲート事件。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>ビナー)。クラスⅥ～Ⅶ優勝〈トレーサー〉。</p> <p>5・27 内海支部大阪湾横断レース。13隻参加。総合優勝〈多賀Ⅱ〉。ファースト・ホーム〈シェラザード〉。</p> <p>6月 NORC 事務局、船舶振興ビル3Fから4Fに移転。</p> <p>6・10 内海支部西宮ポイントレース。参加12隻。修正1位およびファースト・ホーム〈フジコⅢ〉。</p> <p>6・3 第4回相模湾ポイントレース。参加52隻。</p> <p>6・16 初島レース。参加56隻。クラスⅠ～Ⅲ優勝〈旭Ⅲ〉。クラスⅣ優勝〈クレージー・ブルー〉。クラスⅤ優勝〈さら文〉。クラスⅥ優勝〈ミストラル〉。クラスⅦ優勝〈トレーサー〉。ファースト・ホーム〈ロシナンテⅢ〉。</p> <p>6月 ハーフトン・カップ（デンマーク）に〈サラブレット〉（伊藤正，8位）が参加。</p> <p>7月 トランスパック・レースに〈コンテッサⅢ〉（石原裕次郎，53位）が参加。</p> <p>8・1 堀江謙一氏〈マーメイドⅢ〉単独世界一周（西回り）航海のため生穂港を出港。翌74年1月5日ホーン岬通過，5月4日忠岡港（大阪）帰港。275日13時間10分。</p> <p>8・3 第14回鳥羽パールレース参加97隻。クラスⅠ～Ⅴ総合優勝〈トシⅢ〉。クラスⅥ～Ⅶ総合優勝〈トレーサー〉。</p> <p>9・15 沼津・清水フリート共催第1回神子元島レース。清水～神子元島～沼津間約70マイル。参加15隻。Aクラス優勝〈ウィンディー〉。Bクラス優勝〈トキⅡ〉。</p> <p>10・12 第18回神子元島レース。参加51隻。総合優勝およびファースト・ホーム〈旭Ⅱ〉。</p> <p>11月 ORC 国際会議（英）において，NORC がグループⅩⅠに正式に記載されることになる。NORC が正式のナショナル・オーソリティーに指定公認されることになった。</p> <p>12月 駿河湾支部発足。</p> <p>12・1 第38回緊急理事会において会長に古屋徳兵衛氏が選任さる。副会長は秋田博正，飯島元次両氏。専務理事には大儀見薫氏が選任された。</p>	<p>学連はこの年からA級ディングー廃止，国際470級採用。</p> <p>8・8 金大中事件起る。</p> <p>10月 第4次中東戦争起り，石油危機，狂乱物価現出。</p> <p>10・23 江崎玲於奈博士ノーベル物理学賞。</p>
1974年 (昭和49)	<p>1・20 清水フリートしもやけレース。参加14艇。優勝〈翻車魚〉。</p> <p>1・21 NORC 発足20周年。</p> <p>2・1 社団法人日本外洋帆走協会認可10周年。古屋徳兵衛氏（会長），秋田博正，飯島元次氏（副会長），大儀見薫氏（専務理事）再選。</p> <p>2・10 横浜フリート東京湾カップ。参加21艇。優勝〈エマノンⅢ〉。</p> <p>3・10 高松フリートポイントレース。参加10艇。優勝〈カプリス〉。</p> <p>3・21 相模湾ポイントレース。参加48艇。</p> <p>3月 沼津フリートウインターシリーズ。</p> <p>3月 第7回チャイナシー・レースに〈わだつみ〉（金子一芳，2位）が参加。</p> <p>4・6 初島レース。参加39艇。クラスⅠ～Ⅴ優勝〈サンバードⅡ〉。</p>	<p>1・17 日本ヨット協会副会長・上田健治郎氏死去。</p> <p>3・10 小野田元少尉ルパング島より救出。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>クラスⅥ～Ⅶ優勝〈レキュメール〉。ファースト・ホーム〈バーゴⅡ〉。</p> <p>4・28 第2回沖縄～東京レース。参加17艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈サンバードⅡ〉。</p> <p>4・28 第24回大島レース。参加39艇。総合優勝〈サン・ボーイ〉。ファースト・ホーム〈天城Ⅱ〉。</p> <p>5・3 第1回三宅島レース。参加11艇。総合優勝〈せらびⅡ〉。ファースト・ホーム〈ダボハゼⅢ〉(土肥丈志)。</p> <p>5・3 第8回大島廻航レース。参加14艇。</p> <p>5・3 駿河湾支部神子元島レース。参加11艇。クラスA優勝〈ミミⅡ〉。クラスB優勝〈青雲〉。</p> <p>5・3 東海支部熊野～志摩レース。参加30艇。優勝〈ナボレオンⅡ〉。ファースト・ホーム〈アヤⅡ〉。</p> <p>5・19 高松フリート第3回ポイントレース。参加11艇。優勝〈讃州〉。</p> <p>6・9 沼津フリートポイントレース。</p> <p>6・16 駿河湾支部用宗レース。参加16艇。優勝〈サムシング〉。</p> <p>7・19 第1回江の島～清水レース。参加50艇。優勝〈サンボーイ〉。</p> <p>7・21 沼津フリート田子島廻航レース。</p> <p>8・2 第15回鳥羽パールレース。参加119艇。総合優勝〈タキオン〉。</p> <p>8・18 第1回“油壺ちびっこカップヨットレース”開催。</p> <p>8・5 クォータートン・カップ(スウェーデン)に〈トレーサー〉(三宅智久)〈チタⅤ〉(丹羽由昌)が参加。</p> <p>9月 第1回全日本レベルレース選手権(相模湾)。参加51艇。</p> <p>9・15 内海支部第2回オーリーブレース。参加16艇。優勝〈讃州〉。</p> <p>10・10 第7回八丈島レース。参加17艇。優勝およびファースト・ホーム〈サンバードⅡ〉。</p> <p>10・12 第1回大島～初島レース。参加19艇。</p> <p>10・13 沼津フリートポイントレース。</p> <p>10・20 内海支部第1回サントピアレース。参加艇40艇。優勝〈猪牙〉。ファースト・ホーム〈アルビレオ〉。</p> <p>11・2 第19回神子元島レース。参加57艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈サンバードⅡ〉。</p> <p>11・23 第12回小網代カップレース。参加56艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈コンテッサⅥ〉。</p>	<p>6・27 ニクソン米大統領辞任。</p> <p>7・28 青木洋氏〈信天翁〉で世界一周を達成し、石津に帰港する。</p> <p>9・10 アメリカズ・カップに米国防衛。</p> <p>10・8 佐藤前首相ノーベル平和賞。</p> <p>12・26 シドニー～ホバート・レース開催。</p>
1975年 (昭50)	<p>NORC 安全規則改訂。内容は ORC 特別規則を導入。軽クルーザーの名称を廃止。登録艇に安全検査を実施。事故報告書提出の義務付けなど。</p> <p>1・19 近畿北陸支部1月ポイントレース。</p> <p>2・9～11 内海支部主催第1回フリート対抗レース。参加11艇。〈ゆうなぎⅢ〉、黒猫、讃州が上位独占。</p> <p>2・16 近畿北陸支部ポイントレース。</p> <p>2・19 横浜フリート第2回東京湾レース。参加20艇。IORクラス優勝〈バサート〉。</p> <p>3・2 第1回相模湾ポイントレース。参加43艇。</p>	<p>1 SORC '75。総合優勝〈S-Tinger〉。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>3・9 高松フリート第1回ポイントレース。参加7艇。優勝〈黒猫〉。</p> <p>3・21～23 春のレベル・レース・ウィーク。参加44艇。優勝ワントン〈都鳥〉, 3/4トン〈ブルメリアⅢ〉, 1/2トン〈ジンⅥ〉, 1/4トン〈サンバードⅢ〉。</p> <p>4・5 初島レース。参加60艇。</p> <p>4・13 第2回相模湾ポイントレース。参加37艇。</p> <p>4・27 サントピア・オレンジカップ。参加41艇。総合優勝〈サンバードⅢ〉。</p> <p>5・2 第1回洲本～小網代レース。参加22艇。総合優勝〈モーランⅣ〉。ファースト・ホーム〈コンテッサⅥ〉。</p> <p>5・3 第9回大島廻航レース。参加47艇。ファースト・ホーム〈サンバードⅡ〉。優勝クラスⅠ～Ⅳ〈マウピティ〉, クラスⅤ～Ⅵ〈サンバードⅢ〉。</p> <p>5・24 第25回大島レース。参加65艇。優勝クラスⅠ～Ⅴ〈サンバードⅡ〉, クラスⅥ〈サンバードⅢ〉。</p> <p>6・1 洲本フリートオープンレース。参加21艇。総合優勝〈風来坊〉。</p> <p>6・15 近畿北陸支部ポイントレース。参加13艇。</p> <p>7月 近畿北陸支部ポイントレース。参加12艇。</p> <p>7・4 トランスバック・レース。〈都鳥Ⅲ〉(総合41位クラス5位), 〈ディック・チタ〉(14位, 5位), 〈ビンド・フェンペデル〉(49位, 13位)。</p> <p>7・8 '75クォータートン・ワールド(仏)に NORC より山田, 高城両氏を派遣。1978年日本開催の準備。</p> <p>8・18 第16回鳥羽パールレース。参加105艇。総合優勝〈龍飛〉, ファースト・ホーム〈コンテッサⅥ〉, Nクラス優勝〈アクアⅡ〉。</p> <p>9月 沖縄海洋博協会主催第2回太平洋横断シングルハンド・レース。参加8艇。戸塚宏氏〈ウイング・オブ・ヤマハ〉が優勝。</p> <p>9・6 全日本レベル・レース・ウィーク '75。参加50艇(3/4トン9艇, 1/2トン20艇, 1/4トン21艇)。3/4トン優勝〈天城Ⅱ〉, 1/2トン優勝〈エミリーⅡ〉, 1/4トン優勝〈サンバードⅢ〉。</p> <p>9・13 第2回三宅島レース。参加40艇。総合優勝〈龍飛Ⅱ〉。</p> <p>9・22 初のヨット専用 SSB 海岸局として三崎ヨット開局。</p> <p>10・9 第8回八丈島レース。参加10艇。優勝〈コンテッサⅥ〉。</p> <p>10・10 第2回大島～初島レース。参加41艇。総合優勝〈チャチャ〉。ファースト・ホーム〈裕明〉。</p> <p>10・10 内海支部第18回紀伊水道レース。参加26艇。総合優勝〈翔雲〉。ファースト・ホーム〈カノーブス〉。</p> <p>10・12 沖縄海洋博協会主催ハワイ～沖縄レース。参加5艇。〈無双〉が優勝。</p> <p>10・18 近畿北陸支部第2回多景島レース。優勝〈ダークホース〉。</p> <p>11・1 駿河湾支部焼津レース。総合優勝〈ニュー・ノビア〉(加藤武)。</p> <p>11・11 第20回神子元島レース。参加43艇。総合優勝〈裕明〉。</p> <p>11・22 近畿北陸支部第2回竹生レース。参加13艇。総合優勝〈カリー</p>	<p>4・27～29 ナゴヤボートショー。</p> <p>4・3～7 東京国際ボートショー開催。</p> <p>4月 ベトナム戦争終結。</p> <p>5・7 エリザベス英国女王来日。</p> <p>7月 沖縄海洋博開催。</p> <p>7月 アドミラルズ・カップ75。英国チーム5度目の優勝。</p> <p>9・30 天皇皇后訪米。</p> <p>神子元島レースでは強風に本船との接触事故が続発。</p> <p>11月 第1回先進国首脳会議開催。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
1976年 (昭51)	<p>ニョⅥ)。</p> <p>12月 サザンクロス・カップ・レースに〈都鳥Ⅲ〉,〈サンバードⅤ〉,〈バーゴⅢ〉がナショナル・チームを組み参加。</p> <p>12・6 第13回小網代カップ。参加30艇。特別参加の米艇〈ソーサリー〉ファースト・ホーム。総合優勝〈トレーサー〉。</p> <p>12・7 内海支部トナー委員会設立記念レース。参加1/2トン16艇, 1/4トン15艇。優勝1/2トン〈パロネス〉, 1/4トン〈ジャンゴ〉。</p> <p>古屋徳兵衛氏(会長), 秋田博正, 飯島元次氏(副会長), 大儀見薫氏(専務理事)再選。</p> <p>1・18 近畿北陸支部ポイントレース。</p> <p>2月 ニュージーランド・ダンヒル・カップレースに〈サンバードⅤ〉,〈バーゴⅢ〉が参加</p> <p>2・8 第1回横浜カップレース。参加11艇。</p> <p>2・11 第3回東京湾レース。参加11艇。</p> <p>3・1 玄海九州支部が発足。</p> <p>3・7 諸磯フリートポイントレース。参加36艇。</p> <p>3・20 近畿北陸支部第3回春季竹生レース。参加18艇。総合優勝〈スピリット・オブ・ビー〉。</p> <p>4月 第8回チャイナシー・レースに〈都鳥Ⅲ〉,〈わだつみ〉が参加。</p> <p>4・3 '76初島レース。参加47艇。総合優勝〈ジャンゴ〉。</p> <p>4・18 内海支部第1回舵杯大阪湾レース。参加23艇。優勝〈イブⅡ〉。</p> <p>4・29 第3回沖縄〜東京レース。参加13艇。総合優勝〈マジシャンⅡ〉。このレースに参加中の〈トシⅤ〉からクルー1名が落水, 行方不明となる。</p> <p>5・2 第2回洲本〜小網代レース。参加11艇。優勝〈カタリナTOO〉。</p> <p>5・2 第10回大島廻航レース。</p> <p>5・18 近畿北陸支部ポイントレース。</p> <p>5・22 第26回大島レース。</p> <p>6・20 駿河湾支部清水フリート20湊レース。参加21艇。優勝〈王白〉。</p> <p>7月 '76フォータートン・ワールド(米国, コーバスクリスティ)の視察のため, 山田敏雄, 松田菊雄, 歌田道教の3名を派遣。</p> <p>7・16 第3回江の島〜清水レース。参加65艇。総合優勝〈ユキ〉。</p> <p>7・25 沼津フリート田子島レース。</p> <p>7月 近畿北陸支部ポイントレース。</p> <p>7・30 第17回鳥羽パールレース。参加104艇。総合優勝〈スルガⅡ〉。</p> <p>8・1 横浜フリート主催大島ランデブー。参加21艇。</p> <p>8・15 第3回“油壺ちびっこカップ・ヨットレース”。</p> <p>9・19 近畿北陸支部ポイントレース。</p> <p>9・23 第3回三宅島レース。参加47艇。優勝〈マジシャンⅢ〉。</p> <p>10・8 第9回八丈島レース参加8隻。総合優勝〈マジシャンⅢ〉。</p> <p>10・9 第3回大島・初島レース。参加47隻。Ⅲ〜Ⅳクラス優勝〈ベガⅤ〉, Ⅴクラス優勝〈クレージー・ブルーD〉。Ⅵクラス優</p>	<p>6・22 パミューダ・レース。</p> <p>7・19 モントリオールオリンピック開催。日本チームの成績: フィン21位(28カ国), 470級10位(28カ国), FD級18位。</p> <p>7・27 田中角栄前首相逮捕。</p> <p>8・2 ワントン・カップ世界選手権開催。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
1977年 (昭52)	勝〈チャチャ〉。	10・29 山県勝見日本ヨット協会 会長急逝。会長代行に小沢吉太郎 氏。
	10・24 相模湾ポイントレース。参加28隻。	
	10・31 第11回三河湾レース。	
	11・5 第21回神子元島レース。参加28隻。総合優勝〈チャチャ〉。	
	11・27 第14回小網代カップレース。参加36隻。総合優勝〈がめらⅢ〉。	
	2・20 近畿北陸支部ポイントレース。参加14隻。	5 月 領海12海里、漁業水域200 海里法成立。 5 月 第3回先進国首脳会議開催 (ロンドン)。
	3・6 諸磯フリート主催相模湾沿岸レース。参加27艇。	
	3・19 '77 レベルレース・スプリングシリーズ。参加36隻。3/4ト ン優勝〈龍飛〉, 1/2トン優勝〈セラビⅢ〉, 1/4トン優勝〈チャ チャ〉。	
	3・19 近畿北陸支部第4回春季竹生レース。参加18隻。優勝〈楽浪〉。	
	3・20 東海支部熊野レース。参加12艇。優勝〈コンコードV〉。	
	4・2 関東支部初島レース。参加43隻。総合優勝〈セラビⅢ〉。ファース ト・ホーム〈月光V〉。	
	4・3 西内海支部広島フリートスプリング・レガッタ。参加21隻。	
	4・10 内海支部第2回「舵」杯播磨灘レース。参加22隻。優勝〈ヒ グラシ〉。	
	4・16 近畿北陸支部第4回白石レース。参加18艇。優勝〈めるへん〉。	
	4・24 西内海支部南フリート第4回笠戸島一周レース。参加14艇。 優勝〈マッド・キャップ〉。	
	4・30 第11回大島廻航レース。参加34艇。	
	5・2 第3回洲本〜小網代レース。参加14艇。優勝〈慎記郎〉。	
	5・3 玄海支部第3回アリラン・レース。参加18艇。釜山〜博多。 優勝〈ネオアンタレス〉。	
	5・3 西内海支部第10回別府レース。参加35艇。優勝〈ブラックラッ ト〉。	
	5・15 近畿北陸支部ポイントレース。参加19艇。	
	5・15 広島フリートポイントレース。参加14艇。	
	5・21 第27回大島レース。参加46艇。クラスⅠ〜Ⅲ優勝および ファースト・ホーム〈コンテッサⅥ〉。クラスⅣ優勝〈波勝〉。 クラスⅤ優勝〈ドルセ・ヴィタ〉。クラスⅥ優勝〈アイア〉。	
	6・5 相模湾ポイントレース。参加39艇。	
	6・11 広島フリート安芸灘レース。参加22艇。	
	6・19 近畿北陸支部ポイントレース。参加19艇。	
	7 月 第11回アドミラルズ・カップ・レースに〈サンバードV〉, 〈都鳥Ⅲ〉, 〈BBⅢ〉がナショナル・チームを組んで初参加。 18位。	
	7 月 トランスバック・レースに〈月光V〉が参加。	
	7・15 駿河湾支部第4回江の島〜清水レース。参加40艇。クラス Ⅲ優勝〈無双〉, クラスⅣ優勝およびファースト・ホームは 〈雲柱〉, クラスⅤ優勝〈トーネードⅡ〉, クラスⅥ優勝〈アリ アドネⅡ〉, Nクラス優勝〈雷電〉。	
	7・17 近畿北陸支部ポイントレース。参加17艇。	
	7・29 第18回鳥羽パール・レース。参加121艇。総合優勝〈アグア	

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>アズル), Nクラス優勝(サイキⅡ)。</p> <p>9・4 シーボニアフリート沿岸レース。参加45艇。</p> <p>9・11 近畿北陸支部ポイントレース。参加20艇。</p> <p>9・23 第3回三宅島レース。参加23艇。</p> <p>10・7 第10回八丈島レース参加8艇。総合優勝およびファースト・ホーム(波勝)。</p> <p>10・8 駿河湾支部 秋の神子元レース。参加15艇。</p> <p>10・9 近畿北陸支部第4回秋季竹生レース。参加21艇。優勝(フルールブルー)。</p> <p>10・9 第4回大島・初島レース。参加30艇。クラスⅠ優勝(コンテッサⅥ), クラスⅡ優勝(月光Ⅴ), クラスⅢ優勝(無双), クラスⅣ優勝(ダズンA), クラスⅤ優勝(トーネードⅡ), クラスⅥ優勝(竜馬)。</p> <p>10・9 東北外洋帆走協会 TORC 杯レース。参加15艇。</p> <p>11・5 第22回神子元島レース。29艇参加。総合優勝(ダズンA)。</p> <p>11・19 近畿北陸支部第4回多景島レース。参加15艇。</p> <p>11・26 第15回小網代カップ。参加36艇。総合優勝(ノースウインド)。</p>	<p>9月 日本赤軍ダッカで日航機ハイジャック。</p> <p>9・13 アメリカズ・カップ77'。(Courageous) 4-0のストレートで(Australia)を降す。</p> <p>9・18~25 470級世界選手権大会が浜名湖で開催。(16ヶ国, 45隻)</p>
1978年 (昭53)	<p>1・15, 16 近畿北陸支部ニューイヤースシリーズ。参加14艇。</p> <p>2・19 駿河湾支部三角レース。参加6艇。</p> <p>3・26 '78レベル・レース・スプリング・シリーズ。参加33艇(1/4トン8艇, 1/2トン13艇, 3/4トン12艇)。総合優勝3/4トン(ダズンA), 1/2トン(ニンバス2), 1/4トン(フジ Jr)。</p> <p>3・26 西内海支部広島フリート第2回スプリング・ヨット・レガッタ。参加17艇。総合優勝(ブラックラット)。</p> <p>4・1 初島レース。参加33艇。総合優勝(ニンバス2)。</p> <p>4・9 第3回「舵」杯大阪湾レース。参加14艇。総合優勝(カリブⅤ)。</p> <p>4・9 西内海支部広島フリート第1回ポイントレース。参加13艇。総合優勝(オーバス)。</p> <p>4・16 九州外洋帆走協会主催熊本県知事杯レース。参加25艇。</p> <p>4・22 古屋徳兵衛氏会長に再選される。副会長は秋田博正・飯島元次両氏, 専務理事は大儀見薫氏が再選。</p> <p>4・29 第4回沖縄~東京レース。参加27艇。総合優勝(シンドバッドⅡ), ファースト・ホーム(月光Ⅴ)。</p> <p>4・29 関東支部大島・神子元島レース。参加24艇。ファースト・ホーム(BBⅢ)。Aグループ優勝(雲柱), Bグループ優勝(トルネードⅡ)。</p> <p>4・29 駿河湾支部春の神子元島レース。参加7艇。クラスA優勝(イビザ), クラスB優勝(夕風)。</p> <p>4・29 東海支部春のレベルレース。3/4トン優勝(ナルミⅢ), 1/2トン優勝(大王), 1/4トン優勝(レッドホートⅡ)。</p> <p>5・3 第4回洲本~小網代レース。参加7艇。総合優勝(がめらZ)。</p> <p>5・3 東海支部五ヶ所湾合同レース。参加26艇。総合優勝(モーニングミスト)。</p> <p>5・20 第28回大島レース。参加34艇。ファースト・ホーム, 総合</p>	<p>1月 SORC'78。</p> <p>3・17~21 東京国際ポートショー開催。</p> <p>3月 チャイナシー・レース開催。</p> <p>5月 成田空港開港。</p> <p>5・12 日本ヨット協会会長に竹下登氏就任。</p> <p>第8回アジア大会ヨット競技タイで開催。日本, FB, OK の2種目に優勝。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	優勝〈コンテッサⅥ〉。	
6・4	関東支部油壺フリートレース。	6月 バミューダ・レース '78開催。
6・10	西南海支部安芸灘レース。参加16艇。ファースト・ホーム〈シルバーシャーク〉。クラスA優勝〈シルバーシャーク〉、クラスB優勝〈コアンタ〉。	
7・14	第5回江の島〜清水レース。参加42艇。総合優勝〈トレーサー〉。ファースト・ホーム〈龍飛〉。	
7・29	第19回鳥羽パール・レース。参加111艇。ファースト・ホーム〈ビッグ・アブル〉。総合優勝〈バサート〉。	
7・29	九州外洋帆走協会第4回五島外洋レース。参加14艇。ファースト・ホーム、総合優勝〈エスポワールⅤ〉。	
8月	第1回パナナム・クリッパー・カップ・レースにナショナル・チーム〈月光Ⅴ〉、〈サンバードⅤ〉、〈チャスノヴ〉(チャーター)を派遣。	8月 日中平和友好条約調印。
8・5	東北外洋帆走協会第11回親潮外洋ヨットレース。参加26艇。総合優勝〈フーリッシュ〉。	
9・2	東北支部金華山回航レース。参加15艇。総合優勝〈仁王〉。	
9・9	西南海支部柏豊フリート第4回ナイトレース。参加12艇。	
9・19	第5回三宅島レース。参加22艇。総合優勝〈マウビィティ〉。	
9・22	駿河湾支部神子元島レース。参加11艇。	
9・23	第5回秋季竹生レース。参加18艇。総合優勝〈ベッカーⅡ〉。	
9・24	西南海支部広島フリート 安居島回航レース。参加26艇。総合優勝〈バジェナ〉。	
10月	クォータートン世界選手権レース(ORC主催, NORC主管)を相模湾で開催。参加32艇。優勝〈マジシャンⅤ〉, 2位〈カミカゼ・エクスプレス〉と日本艇が活躍。また、〈パラダイス〉(センター・ボーダー)が沈没。乗員はライフラフトで漂流の後救助される。	
10・7	第11回八丈島レース。参加17艇。ファースト・ホーム、総合優勝〈裕明〉(所要時間36 h 46 m 29 s)。	
10・7	第5回大島・初島レース。参加36艇。クラスA優勝〈バイバイⅠ〉, クラスB優勝〈イホ〉。	
10・8	西南海支部広島フリート第5回ポイントレース。参加16艇。	
10・15	東北外洋帆走協会TORC杯レース。参加18艇。総合優勝〈ネプチューン〉。	
10・22	第23回三河湾レース。参加15艇。総合優勝〈ミール〉。	
10・22	第26回小網代フリートレース。参加15艇。	
10・29〜11・3	近畿北陸支部第1回琵琶湖ウィーク。参加12艇。3/4トン優勝〈カリニョⅤ〉, 1/2トン優勝〈フルール・ブルー〉, 1/4トン優勝〈風小僧〉。	
11・11	第23回神子元島レース。ファースト・ホーム〈ビッグ・アブル〉。総合優勝〈バイバイⅠ〉。	
11・25	第16回小網代カップレース。総合優勝〈イホ〉。	
12月	JORの具体化案が、第67回理事会に出される。	

年号	主要事項	関連/社会事項
1979年 (昭54)	<p>1・1 内海, 西内海, 玄海支部共催別府～洲本レース。参加7艇。</p> <p>1・14 アドミラルズ・カップ日本代表艇選考レース(第1, 第2, 第3レース)。参加8艇。</p> <p>2・10 アドミラルズ・カップ日本代表艇選考レース(第4レース)。総合優勝〈コ・テルテル〉。</p> <p>3・24 関東支部 '79レベルレーススプリング・シリーズ。1/2トン優勝〈チュプリンコV〉, 3/4トン優勝〈雲桂〉。</p> <p>3・31 初島レース。参加艇41艇。優勝およびファースト・ホーム〈ビッグ・アプル〉。</p> <p>4月 JORを制定。 会友艇制度が発足。</p> <p>4・1 内海支部第4回舵杯大阪湾レース。優勝〈コ・テルテル〉。</p> <p>4・8 西内海支部広島フリートポイントレース。参加15艇。</p> <p>4・28 第2回大島・神子元レース。参加20艇。優勝, ファースト・ホーム〈ビッグ・アプル〉。</p> <p>4・30 近畿北陸支部彦根レース。優勝・クラスA〈クンビイラ〉。クラスB〈フルール・ブルー〉。クラスC〈マリソル〉。</p> <p>5・1 第1回小笠原レース。参加18艇。総合優勝〈ベガV〉(古川保夫)。</p> <p>5・2 第5回洲本～小網代レース。参加6艇。優勝〈ジャストⅢ〉。</p> <p>5・3 東海支部五ヶ所湾合同レース。参加30艇。優勝〈くんてるⅢ〉。</p> <p>5・4 駿河湾支部神子元レース。</p> <p>5・13 東海支部三河湾レース。優勝〈ベンダパール〉。</p> <p>5・13 関東支部沿岸レース。</p> <p>5・26 関東支部大島レース。</p> <p>6・3 関東支部沿岸レース。</p> <p>6・3 東海支部伊勢湾合同レース。</p> <p>6・22 東海支部熊野レース。</p> <p>7月 トランスバック・レースに〈都鳥Ⅲ〉, 〈カレラ〉, 〈ノミⅢ〉が参加。〈都鳥Ⅲ〉は総合2位。</p> <p>7・8 関東支部フリート。沿岸レース。</p> <p>7・13 第6回江の島～清水レース。参加33艇。総合優勝〈チュプリンコ〉(菅原)。ファースト・ホーム〈ビッグ・アプル〉。</p> <p>7・23 第20回鳥羽パール・レース。参加123艇。総合優勝〈タキオン〉。ファースト・ホーム〈ビッグ・アプル〉。</p> <p>8月 第12回アドミラルズ・カップ・レースに〈コテルテルⅡ〉, 〈月光Ⅵ〉, 〈トーゴⅥ〉がナショナル・チームとして参加。12位。 この年のファストネット・レースは大荒れとなり, 遭難艇が続出した(死者15名)。〈月光Ⅵ〉はハルにダメージを受けてリタイアした。</p> <p>8・11 第1回 NORC 海事思想普及委主催「三浦市ヨット・フェスティバル」。</p> <p>8・19 第28回三河湾レース。参加8艇。</p> <p>9・2 関東支部沿岸レース。</p>	<p>1月 米中国交樹立。 IYRUでボードセーリングを正式採用。 イラン王制廃止, ホメイニ実権掌握。</p> <p>5月 英国サッチャー保守党内閣成立。</p> <p>6月 東京サミット(先進国首脳会議)開催。</p> <p>8月 ファストネット・レース遭難事故の結果(参加302隻, 完走85隻, 艇体放棄17隻, 死亡15名, 救助者136名)。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>9・14 関東支部三宅島レース。参加35艇。優勝〈メルルーサV〉。</p> <p>9・14～10・10 '79, 1/2トン, 3/4トン全日本選手権。優勝1/2トン〈チャイナタウン〉。3/4トン〈ベガV〉。</p> <p>9・30 関東支部沿岸レース。</p> <p>10・6 東海支部東海レース。</p> <p>10・6 関東支部八丈島レース。参加10艇。総合優勝〈アズサ〉。</p> <p>10・6 第6回大島・初島レース。参加33艇。総合優勝〈メルルーサ〉。</p> <p>11・3 第24回神子元島レース。参加50艇。総合優勝〈ローデムV〉(戸田浩)。ファースト・ホーム〈ロシナンテ〉。</p> <p>11・3 関東支部第2回フリート対抗チームレース。参加38艇。優勝・油壺フリートA〈月光V〉, 〈慎記郎〉, 〈ローデムV〉。</p> <p>11・24 第17回小網代カップレース。参加49艇。総合優勝〈ティダ〉(伊志嶺亮)。ファースト・ホーム〈サンバードV〉(山崎達光)。</p>	<p>10・26 朴韓国大統領暗殺される。</p> <p>11・8 竹下登日本ヨット協会の長辞任。山本房生会長代行。</p>
1980年 (昭55)	<p>1・27 駿河湾支部しもやけレース。</p> <p>1・28 近畿北陸支部 ニューイヤーズシリーズ・レース。</p> <p>2・23 第75回臨時理事会において会長に石原慎太郎氏が選任される。前会長古屋徳兵衛氏は名誉会長となった。副会長は秋田博正・大儀見薫両氏, 専務理事には清水栄太郎氏が選出された。</p> <p>3・29 '80レベル・レース・スプリングシリーズ。参加16艇。優勝3/4トン〈慎記郎〉。1/2トン〈チュプリンコV〉。1/4トン〈ベガス〉。</p> <p>4月 沖縄支部発足。</p> <p>4・5 初島レース。参加48艇。優勝Aグループ〈サンバードV〉。Bグループ〈ドリー〉。</p> <p>4・13 西南海支部広島フリート安芸灘レース。優勝〈アクアベル〉。</p> <p>4・29 第5回沖縄〜東京レース。参加21艇。総合優勝〈シンドバッドII〉。ファースト・ホーム〈サンバードV〉。</p> <p>5・3 近畿北陸支部竹生レース。</p> <p>5・3 第3回大島・神子元島レース。参加19艇。総合優勝〈月光VI〉。</p> <p>5・18 西南海支部広島フリートポイントレース。</p> <p>5・24 第30回大島レース。参加43艇。総合優勝〈サンバードV〉。</p> <p>6・21 東海支部熊野レース。</p> <p>7・12 第7回江の島・清水レース。参加43艇。優勝〈トレサー〉。ファースト・ホーム〈ビッグ・アブル〉。</p> <p>7・25 第21回鳥羽パール・レース。参加117艇。総合優勝およびファースト・ホーム〈ビッグ・アブル〉。</p> <p>8月 第2回パンナムクリッパー・カップ・レースに〈雲柱〉, 〈ティダ〉, 〈朝鳥〉がナショナル・チームを組んで参加。</p> <p>9・13 第7回三宅島レース。参加22艇。総合優勝〈慎記郎〉。</p> <p>9・13 '80レベルレース全日本。参加24艇。総合優勝, 3/4トン〈パラフレニアン6〉。1/2トン〈フルールブルーZ〉。1/8トン〈バイバイ・チャビー〉。</p> <p>9・27 第7回大島・初島レース。参加30艇。優勝クラスI〜IV〈ハ</p>	<p>7月 鈴木内閣成立。</p> <p>7・19 第22回オリンピック・モスクワ大会。日本不参加。</p> <p>9月 イラン・イラク戦争起る。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>ニービー)。クラスⅤ～Ⅵ(翻車魚Ⅳ)。このレースで(トマホーク)のクルー2名、落水により行方不明。</p> <p>10・10 第13回八丈島レース。優勝(梓)。</p> <p>11・2 第25回神子元レース。参加44艇。総合優勝(ローデムⅤ)。</p> <p>11・2 第3回竹生レース。優勝クラスⅠ(スエコ)、クラスⅡ(フログⅤ)、クラスⅢ(バイバイチャビー)。</p> <p>11・23 第18回小網代カップレース。総合優勝(雲柱)。</p> <p>11・2 第3回関東支部フリート対抗チームレース。フリート優勝は油壺チーム(ローデムⅤ)、(慎記郎)、(月光Ⅵ)。</p>	<p>12・30 470級選手権大会佐島で開催。(3カ国, 30隻)</p>
1981年 (昭56)	<p>3月 関東支部下田フリート発足。</p> <p>第3回ビッグボート・レースにおいて帰港中の(エキスプローラ)から2名落水し、うち1名が死亡。</p> <p>4・5 第6回「舵」カップレース。参加40隻。総合優勝(チサトⅤ)。</p> <p>4・28 第2回小笠原レース。参加12艇。総合優勝(光)。</p> <p>5月 第1回黒船カップ・レース。</p> <p>第1回琵琶湖クルーザー・フェスティバル。</p> <p>5・3 大島～神子元島レース。クラスⅠ～Ⅳ1位(ビッグ・アブル)。クラスⅤ～Ⅵ1位(カラス)。</p> <p>6・7 太平洋シングルハンドレース(サンフランシスコ～洲本)スタート。参加7隻。優勝(太陽)(今田福成)。</p> <p>7・22 九州外洋帆走協会が中国訪問航海へ出発。</p> <p>7・24 第22回鳥羽パールレース。参加艇117隻。総合優勝(ローデムⅤ)。ファースト・ホーム(摩利支天)。</p> <p>8・13 徳島フリート結成記念レース。総合優勝(コ・テルテル)。</p> <p>9月 NORC 夏祭り, 安全フェスティバル(船の科学館)。</p> <p>9・12 第8回三宅島レース。参加16艇。総合優勝(ビッグ・アブル)。ファースト・ホーム(サンバードⅤ)。</p> <p>9・20 第4回琵琶湖シリーズポイントレース。</p> <p>9・26 第8回大島・初島レース。参加艇29隻。総合優勝およびファースト・ホーム(ビッグ・アブル)。</p> <p>10・9 第14回八丈島レース。参加2艇。2艇ともDNS。</p> <p>10・10 第4回琵琶湖シリーズポイントレース。総合優勝(チャイルドオブフォーチュン)。</p> <p>10・31 第26回神子元島レース。総合優勝(ローデムⅤ)。ファースト・ホーム(摩利支天)。</p> <p>11・22 第19回小網代カップレース。総合優勝およびファースト・ホーム(雲柱)。</p>	<p>1・1 レーガン大統領就任。</p> <p>3月 神戸ボートピア開催。</p> <p>5月 フランスミッテラン政権成立。</p> <p>8月 アドミラルズ・カップ開催。</p> <p>8・29 第3回ホイットブレッド世界一周レーススタート。</p> <p>10月 米国スペースシャトル打ち上げ。</p> <p>10・15 J/24全日本選手権。</p>
1982年 (昭57)	<p>石原慎太郎氏(会長), 秋田博正, 大催見薫氏(副会長), 清水栄太郎氏(専務理事)再選される。</p> <p>4・3 初島レース。総合優勝(ドリーⅠ)。ファースト・ホーム(摩利支天)。</p> <p>4・29 第6回沖縄～東京レース。参加20艇。総合優勝(サマーボーイ)(辰井栄一郎)。ファースト・ホーム(エビキュリアン)(神</p>	<p>2月 ホテルニュージャパン火災事故。</p> <p>日航機羽田墜落事故。</p> <p>4月 フォークランド紛争起る。</p>



年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>原嘉男)。</p> <p>5・2 第5回大島～神子元レース。参加18艇。クラスⅠ～Ⅳ優勝(慎記郎Ⅴ)。クラスⅤ～Ⅵ(シルフィードⅢ)。</p> <p>5・29 第32回大島レース。優勝, A グループ(摩利支天)。B グループ(エミリー)。ファースト・ホーム(摩利支天)。</p> <p>6・4 第1回東京～仙台レース。参加6艇。優勝およびファースト・ホーム(あこやおおみずなぎどり)。</p> <p>6・21 第1回仙台～函館レース。参加7艇。優勝(仁王)。ファースト・ホーム(あこやおおみずなぎどり)。</p> <p>'82日本縦断オーシャン・カップ(沖縄～東京, 東京～仙台, 仙台～函館の全レース)総合優勝(がめら)(朝河清)。</p> <p>7・10 第9回江の島～清水レース。参加23艇。優勝およびファースト・ホーム(衣笠)。</p> <p>7・23 第23回鳥羽パール・レース。参加107艇。優勝(エミリーⅢ)。</p> <p>8月 第3回パンナム・クリッパー・カップ。(飛梅)(才田忠利)艇別総合優勝。</p> <p>9・11 第9回大島・初島レース。</p> <p>9・23 第9回三宅島レース。参加5艇。完走(ロシナンテ)のみ。〈ボイシンアナⅡ〉落水事故発生。1人行方不明。</p> <p>10・10 内海支部第25回紀伊水道レース。優勝(ウイザード)。</p> <p>10・10 玄海支部第2回佐世保～博多レース。</p> <p>10・10 沖縄支部那覇～宮古島レース。</p> <p>10・10～17 '82関西フリート対抗レース。参加24艇。優勝西宮Eフリート(コ・テルテルⅡ), (トーゴⅦ), (ノミⅢ)。個別優勝(トーゴⅦ)。</p> <p>10・30 神子元島レース。総合優勝(カラスⅤ)(斜森保雄)。</p> <p>11・20 小網代カップ・レース。優勝(がめら)(朝河清)。</p> <p>11月 ORC 年次会議に, 日本代表 ORC カウンセラーとして野本謙作氏が出席。</p> <p>11・7～20 関東支部フリート対抗レース。艇別優勝(フォーティ)。チーム優勝, 江の島チーム。</p>	<p>6月 東北新幹線開通。</p> <p>10 1982年 J-24世界選手権。</p> <p>11月 上越新幹線開通。</p> <p>11・27 日本ヨット協会創立50周年。</p>
1983年 (昭58)	<p>1・16 近畿北陸支部ポイントレース。参加12艇。</p> <p>2月 '83 SORC に〈ゼロ〉(津村重孝)が参加。総合31位。</p> <p>3・21 東海支部野島レース。参加10艇。総合優勝(長良)。</p> <p>4・2 初島レース。参加32艇。総合優勝(慎記郎)。</p> <p>4・10 西宮ポイントレース中落水事故。1名死亡。</p> <p>5・1～6 第3回小笠原レース。参加9艇。総合優勝(青海波)(清田博), ファースト・ホーム(ナチⅦ)(二村昭治)。</p> <p>5・17 BOC シングルハンド世界一周レースで多田雄幸氏(コーデンオケラ)がクラスⅡで優勝。</p> <p>5・21 初島レース。参加34艇。総合優勝(カザ7)。ファースト・ホーム(フジⅢ)。</p> <p>5・28 第33回大島レース。参加40艇。グループA 総合優勝(慎記郎)。クラスB 総合優勝(がめら)。</p>	<p>SORC '83。総合優勝(スカーレット・オハラ)。</p> <p>3・23～27 東京国際ボートショー。</p> <p>3・31～4・3 神戸国際ボートショー。</p>

年号	主要事項	関連/社会事項
	<p>5・21～6・4 第6回関東支部フリート対抗レース。参加9ブロック27艇。総合優勝〈慎記郎〉。</p> <p>6月 6月末現在で、会員数2987名、登録艇795隻、会友艇276隻。</p> <p>7月 大儀見薫氏がORCカウンセラーに任命される。 国際レース参加艇に対してダブル・メジャメントを行なうことが決定される。 トランスバック・レースに〈摩利支天〉が出場。クラス2位。</p> <p>7・16 第10回江の島～清水レース。参加25艇。ファースト・ホーム〈マルジェ〉。総合優勝〈ブルーノート〉。</p> <p>7・29 第24回鳥羽パール・レース。参加97艇。総合優勝〈トライアングル〉。ファースト・ホーム〈ピンド7〉。</p> <p>8月 アドミラルズ・カップに日本チーム〈トーゴⅦ〉、〈フロート・オブ・バジェ〉、〈フォーミダブル〉(チャーター艇)が参加。15位。</p> <p>10・9 第28回神子元島レース。参加27艇。総合優勝〈ビッグバン〉。</p> <p>11・3 '83全日本熱海オフショア・チャンピオン・シリーズ。参加13艇。総合優勝〈スーパーサンパード〉(山崎達光)。</p> <p>11・19 第21回小網代カップ。参加27艇。総合優勝〈エミリーⅢ〉。ファースト・ホーム〈カラス〉。</p> <p>12・1 NORC 北海道支部、津軽海峡支部発足。</p> <p>12・26 シドニー～ホバート・レースに〈ゼロ〉(津村重孝)が参加。</p> <p>12・30 シーボニアカップ三浦～グァム国際親善ヨットレース。参加6艇。ファースト・ホームおよび総合優勝〈摩利支天〉。</p>	<p>8月 フィリッピンアキノ氏暗殺事件。</p> <p>9月 ソ連軍による大韓航空機撃墜事件。</p> <p>10月 三宅島大噴火。</p>